

SDE-204F(4) 火災通報装置

取扱説明書

消防設備適合認定型式番号 火通-022 号
電気通信端末機器適合認定番号
SDE-204F(4) 火災通報装置 A11-0027001
RTC-203F 火災通報専用電話機 P96-0021-0

サクサ株式会社

安全上のご注意

- ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

本文中のマーク説明



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

- この装置は、日本国内用に設計されています。電圧や電話交換方式の異なる海外では使用できません。
This telephone system is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
- お読みになったあとは、この別冊をいつでも見られる場所に、必ず保管してください。

警告

- ◆装置を分解したり、改造したりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。(分解・改造は法律で禁止されています)
- ◆表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、付属以外の電源プラグを使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- ◆電源プラグは確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属等が触れると火災・感電の原因となります。
- ◆ボイラーや加湿器のそばなど、湿度の高いところでは使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- ◆電源プラグのコードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったりしないでください。また、重い物を乗せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。また電源プラグのコードが傷んだときは(芯線の露出・断線等)当社の本社・支社・支店に修理を依頼してください。
- ◆濡れた手で電源プラグに触れないでください。感電の原因になります。
- ◆装置に水が入ったりしないようにご注意ください。また、水滴がついたときは、乾いた布で拭き取ってください。万一、水が入ったときは、電源プラグを抜いてから当社の本社・支社・支店にご連絡ください。そのまま使用すると、故障・感電の原因となります。
- ◆雷が激しいときは、電源プラグ、電話回線コードに触れないでください。感電の原因となります。
- ◆装置のそばにクリップ・安全ピンなどの金属類を置かないでください。端子がショートし、火災・感電・熱発生によるやけどの原因となります。
- ◆装置のそばに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。
- ◆テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- ◆傾いた台の上や、振動、衝撃の多いところに設置しないでください。落下・転倒の恐れがあり、けがの原因となります。また、万一、落下、転倒により破損したときは、電源プラグを抜いてから当社の本社・支社・支店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- ◆装置のバッテリーは、必ず専用のものを使ってください。また、バッテリーは、火の中に投入したり、分解や加熱しないでください。火災・けがの原因となります。

注意

- ◆装置を壁掛けにするとき、装置の重みにより落下しないよう堅固に取り付け・設置してください。落下してけがの原因となることがあります。
- ◆電池を入れるときは、極性表示（⊕と⊖の向き）に注意し、指示通りに入れてください。また、指定以外の電池の使用はしないでください。
- ◆直射日光の当たるところや、暖房設備・ボイラーなどのためにいちじるしく温度が上昇するところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
- ◆調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ◆装置の電源プラグのコードを熱器具に近づけないでください。送信機の電源プラグのコードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ◆電源プラグをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグ本体を持って抜いてください。コードを引っ張ると、コードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- ◆電源プラグの刃にほこりが付着している場合は、よく拭き取ってください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- ◆装置を移動させる場合は、必ず電源プラグ、電話回線コードを抜いてから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- ◆装置の信頼性を維持、確保するため、および使用者の安全性を確保するため必ず接地アースを接続してください。
- ◆保守点検の際は、必ず電源プラグを抜いてから行ってください。また通電中に行う場合は、感電に気をつけて行ってください。

目 次

1. はじめに	1
2. 概 要	1
3. システム構成	1～2
4. 規 格	3
4-1 適用回線	3
4-2 回線種別	3
4-3 通報先	3
4-4 入 力	3
4-5 出 力	3
4-6 電气的特性	3
4-7 本装置の耐用年数	3
4-8 寸法・重量	3
5. 各部の名称と工事説明	4～9
5-1 各部の名称とはたらき	4
5-2 内部の名称	5～6
5-3 外観寸法図	7～8
5-4 端子台の接続	9
6. 接続方法	10～11
6-1 RTC-203F 火災通報専用電話機との接続	10
6-2 電話回線および電話機の接続	11
6-3 電源の接続	11
6-4 バッテリーの接続	11
6-5 リチウム電池	11
6-6 RTC-202F 電話機増設装置（オプション）	12～15
6-7 PS-121 増設電源装置（オプション）	16～17
6-8 RTC-204F 電話機増設装置（オプション）	17～20
6-9 ターミナルアダプタ TA/T	21

目次

7.設定および登録	22～26
7-1 ディップスイッチによる設定	22
7-2 ジャンパーによる設定	22
7-3 テンキーによる登録と確認方法	22～25
7-3-1 登録方法	22～24
7-3-2 登録内容の確認方法	25
7-3-3 登録内容（一般通報先電話番号）の消去	25
7-4 通報メッセージの試験方法（聴取）	26
7-5 通報動作の試験方法	26
7-6 バッテリーの試験方法	26
8.その他	27～29
8-1 通報の優先順位機能	27
8-2 強制切断機能	27
8-3 火災通報ボタン、自火報の短絡検出機能	27
8-4 消防確受ランプ・火災報知ベル出力の動作	27
8-5 音声ロムパック	28
8-6 動作と表示	28
8-7 動作試験	28
9.保 守	30～31
9-1 添付ラベルの貼付	30
9-2 バッテリーの耐用年数	30
9-3 リチウム電池の装着について	31
9-4 外部供給電源	31
9-5 ヒューズの交換について	31
9-6 アクリルカバーの交換について	31
10.トラブルシューティング	32～33

火災発生時の動作手順

1. 火災通報専用電話機を接続した場合
2. 火災通報専用電話機未接続の場合

保証書

**SDE-204F 火災通報装置をご使用にあたっては、
下記の項目について十分に留意してください。**

1. SDE-204F火災通報装置は、火災のみに使用できるものであり、救急要請または救助要請などの通報には使用できません。
2. SDE-204F火災通報装置は、当該設備を設置した防火対象物の火災の通報のみに使用できるものであり、隣棟等の火災の通報は、一般の電話機にて行ってください。
3. SDE-204F火災通報装置により通報した後、誤報が判明した場合には直ちに本装置にて取消するか、火災通報専用電話機にて取消するか、または訂正を行ってください。
4. SDE-204F火災通報装置により通報した後、火災状況に関する具体的な内容について、消防機関から呼返しがあつた場合には、速やかに火災通報専用電話機の受話器をとって説明してください。
5. SDE-204F火災通報装置の設置・工事にあたっては、甲種第4類の免許が必要です。
また、常に適正な通報が行えるように定期的に保守点検を受けてください。
6. SDE-204F火災通報装置は、異常発生を通報する装置であり、いわゆる災害防止装置ではありません。
万一、事故・災害が発生した場合でも一切責任を負いかねますのでご了承ください。

はじめに

この取扱説明書は、SDE-204F 火災通報装置（以下「本装置」という）の機能を完全に発揮させるための工事・機能設定・試験等の手順、および注意事項について説明したものです。

2 概要

火災発生時に、自動火災報知設備（以下「自火報」という）の作動や火災通報ボタンを押すと、119 番（消防）へ自動的に“火災発生”を知らせるシステムです。

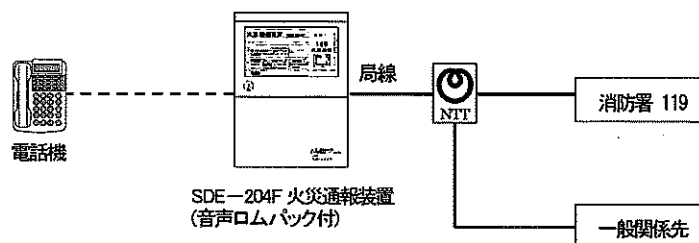
火災通報ボタンを押すだけで自動的に 119 番にダイヤルし、音声合成メッセージにより火災の発生、施設名、所在、名称などを連絡します。

119 番（消防）が着信すると火災通報専用電話機により 119 番（消防）と火災の規模、負傷者の有無などの話もできます。

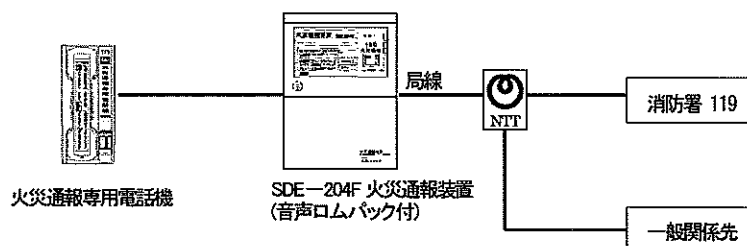
119 番への通報が終了すると、消火、避難活動の応援を求めるために、あらかじめ設定しておいた関係者宅へ自動的に同じ内容のメッセージを通報します。（最大 16 ヶ所の関係者に通報します。）

3 システム構成

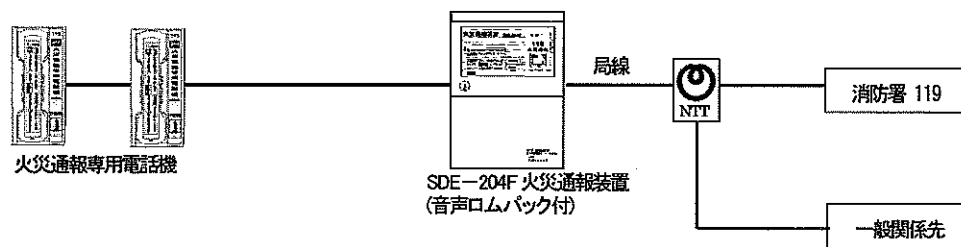
1. 本体のみで使用の場合（火災通報専用電話機なし）



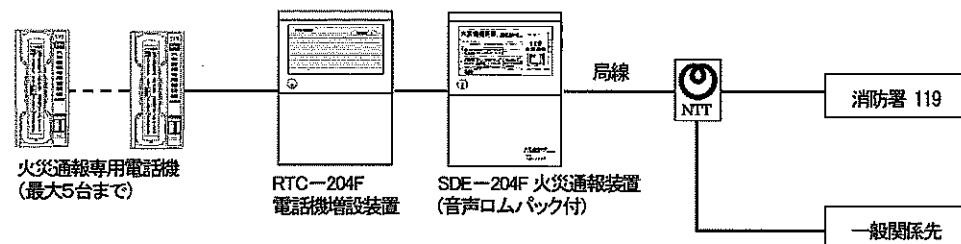
2. 火災通報専用電話機を 1 台で使用の場合



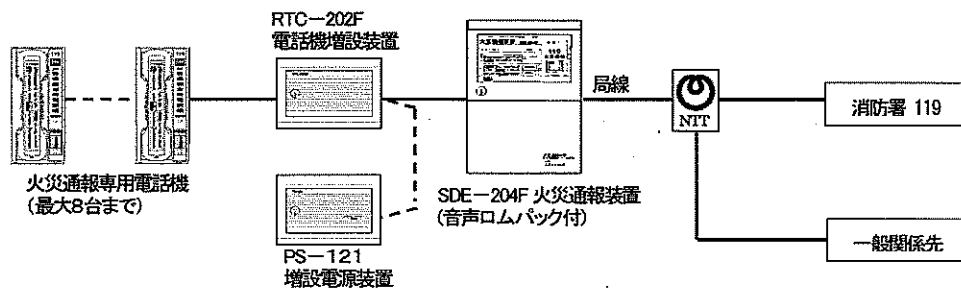
3. 火災通報専用電話機を2台で使用の場合



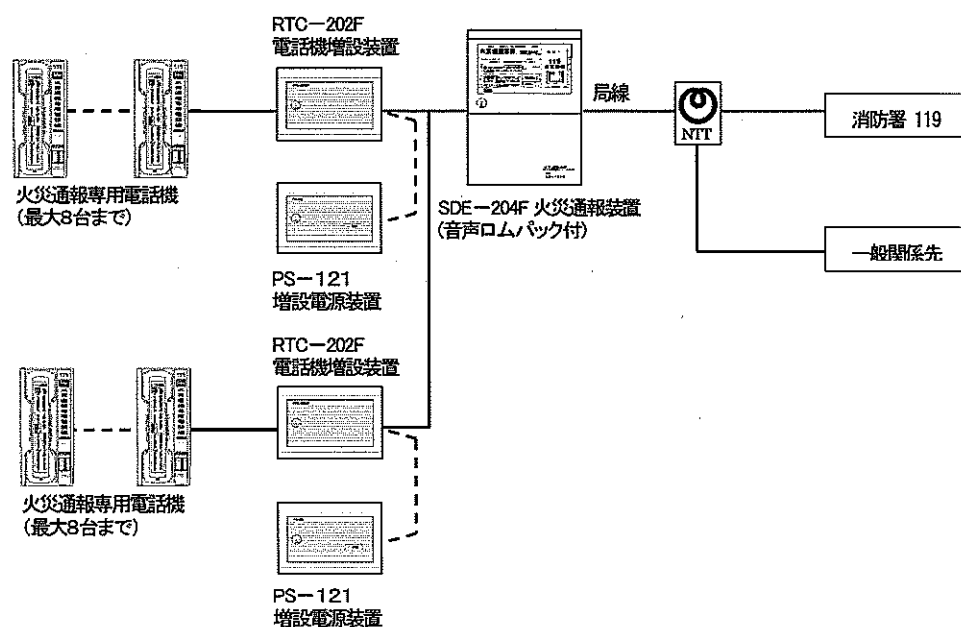
4. 火災通報専用電話機を3～5台で使用の場合



5. 火災通報専用電話機を6～8台で使用の場合



6. 火災通報専用電話機を9～16台で使用の場合



4

規 格

4-1 適用回線

NTT 電話回線・事業所集団電話回線(セントレクス)

注1.構内交換機の内線側には接続できません。

注2.FAX および留守番電話が接続されている回線は使用できません。

注3.消防機関からの逆信が受けられない回線には使用できません。

(NTT 以外の回線提供者のアダプタが使用されている場合は、使えない事があります。)

注4.公衆電話回線には使用できません。

4-2 回線種別

DP(10/20PPS)/PB

4-3 通報先

通 報 先 ダイヤル 番 号	119 or 0119 と一般通報(最大 16 桁)
通 報 先 容 量	119 と一般通報 16ヶ所(合計 17ヶ所)
不応答先への再ダイヤル	決められた時間間隔で 98 回(消防) " で1ヶ所あたり 17 回
メ ッ セ ー ジ	音声メッセージ 2 種類

注)0119 は事業所集団電話回線(セントレクス)に接続したときに使います。

4-4 入 力

火災ボタン・自火報…… 2 (無電圧のメーク受)

4-5 出 力

火災報知ベル……… 1 (リレー接点: メーク出力・接点容量 DC12V 1A)

消防確受ランプ……… 1 (リレー接点: メーク出力・接点容量 DC12V 1A)

ボタン線短絡……… 1 (オープンコレクタ DC12V 0.5A)

4-6 電気的特性

電 源	AC100V±10% 50/60Hz 予備電池内蔵
外 部 供 給 電 源	DC12V± $\frac{2}{100}$ 300mA MAX
使 用 温 湿 度 範 囲	-5℃～+40℃ 30%～80%但し、結露なきこと
消 費 電 力	待機時 7VA 動作時 15VA(最大負荷時)
停 電 保 証	6時間経過後10分の通報が可能

4-7 本装置の耐用年数

7年を目安とします。

4-8 寸法・重量

本装置 外形寸法・重量 315(H)×230(W)×65(D)mm 約 2.0kg(バッテリー含む)

火災通報専用電話機(RTC-203F)

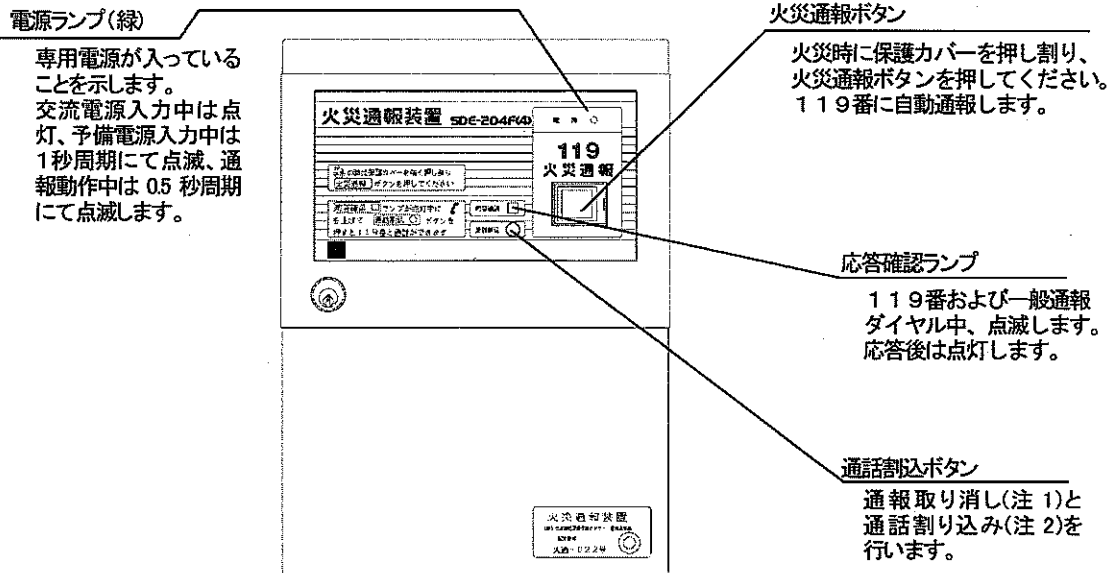
外形寸法・重量 220(H)×100(W)×76(D)mm 約 0.6kg

5

各部の名称と工事説明

5-1 各部の名称とはたらき

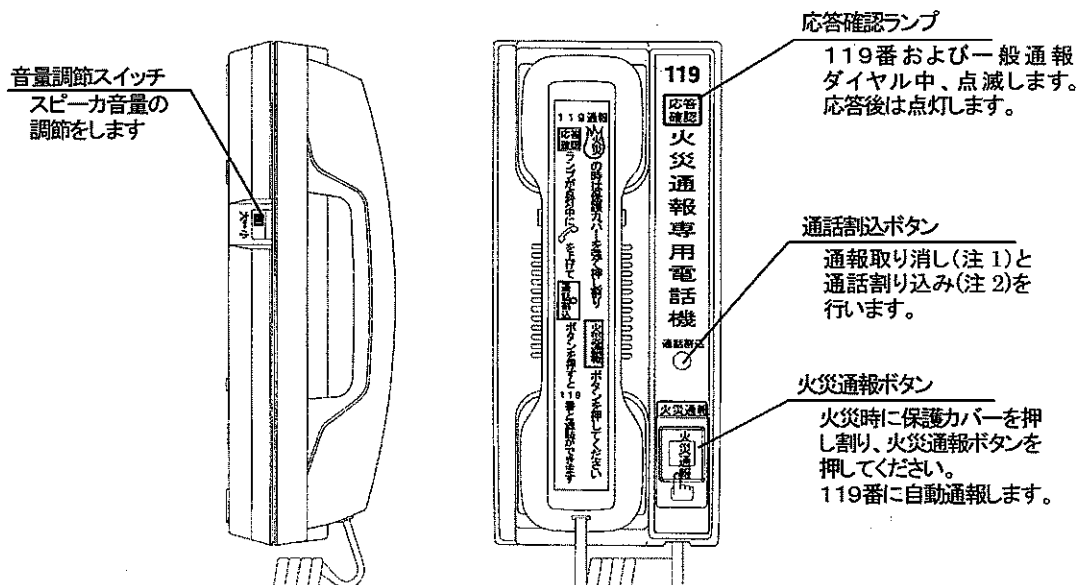
1) SDE-204F 火災通報装置



注1 通報取り消し：応答確認ランプが点滅中に受話器をかけたまま通話割り込みボタンを押すと通報を取り消すことができます。

注2 通話割り込み：119番が応答後、受話器を外し、通話割り込みボタンを押すと119番と直接話ができます。

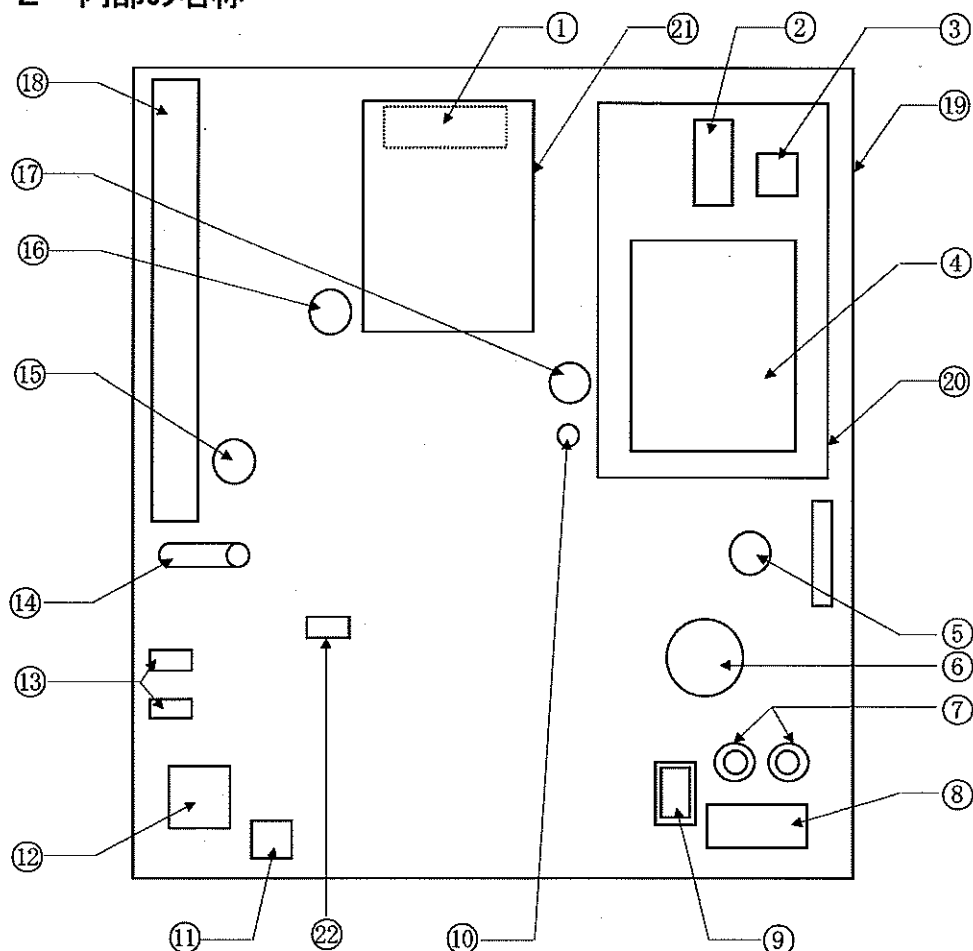
2) RTC-203F 火災通報専用電話機



注1 通報取り消し：応答確認ランプが点滅中に受話器をかけたまま通話割り込みボタンを押すと通報を取り消すことができます。

注2 通話割り込み：119番が応答後、受話器を外し、通話割り込みボタンを押すと119番と直接話ができます。

5-2 内部の名称



番号	名 称	は た ら き
1	音声 ROM パック用コネクタ(CN6)	音声 ROM パックを挿入します。
2	登録・確認用7セグメント LED(赤)	登録内容等を表示します。
3	設定用ディップスイッチ(SW1)	通報テスト時使用します。
4	登録・確認用テンキー	ご使用前に設定必要事項を登録してください。 (登録内容と方法は P22「設定及び登録」を参照)
5	モニタ音量調整用ボリューム(RV2)	モニタ時の本体内蔵のスピーカ音量を調整します。 右に廻すと音量が大きくなります。
6	登録保護電池用ホルダー(BT1)	テンキーで登録された内容のバックアップ用にリチウム電池を挿入します。
7	電源ヒューズ(F1・F2)ミゼット型 1A (タイムラグタイプ)	AC100V 電源用ヒューズです。 電源が点灯しないときは点検してください。
8	AC100V 入力端子台(TB2)	AC100V 電源を接続してください。
9	電源スイッチ(SW3)	AC100V 電源の「入」「切」を行います。
10	リセット(SW2)	通常は使用しません。

番号	名 称	は た ら き
11	バッテリー用コネクタ(CN5)	バッテリーのコネクタを挿入します。
12	回線・電話機用モジュラコネクタ(CN1)	電話回線・電話機を接続します。
13	逆信時の電話機ベル鳴動ジャンパ (JP2、JP3)	逆信時に電話機のベル鳴動を設定します。 O N側 →火災通報専用電話機・電話機の両方が鳴ります。 OFF側 →火災通報専用電話機のみ鳴ります。 (2つのジャンパは必ず同一の設定とします) (初期設定は ON 側です)
14	外部出力用ヒューズ(F3) ミゼット型 0.5A	外部出力用のヒューズです。 外部の出力が出力されないとき点検してください。
15	RTC-203F モニタ音量調整用ボリューム (RV1)	モニタ時の火災通報専用電話機のスピーカ音量を調整します。 右に廻すと音量が大きくなります。
16	不定フレーズ音量調整用ボリューム (RV3)	通報メッセージの不定フレーズ部の音量を調整します。 右に廻すと音量が大きくなります。
17	固定フレーズ音量調整用ボリューム (RV4)	通報メッセージの固定フレーズ部の音量を調整します。 右に廻すと音量が大きくなります。
18	端子台(TB1)	外部機器との接続用端子台です。
19	メイン基板	主制御を行います。
20	テンキー基板	工注設定および登録用に使用します。
21	音声 ROM パック (注1)	通報メッセージが記憶されます。
22	火災専用電話機使用ジャンパ(JP5)	O N側 →火災専用電話機を使用しない場合 (電話機使用の時) OFF側 →火災専用電話機を使用する場合 (初期設定は ON 側です)

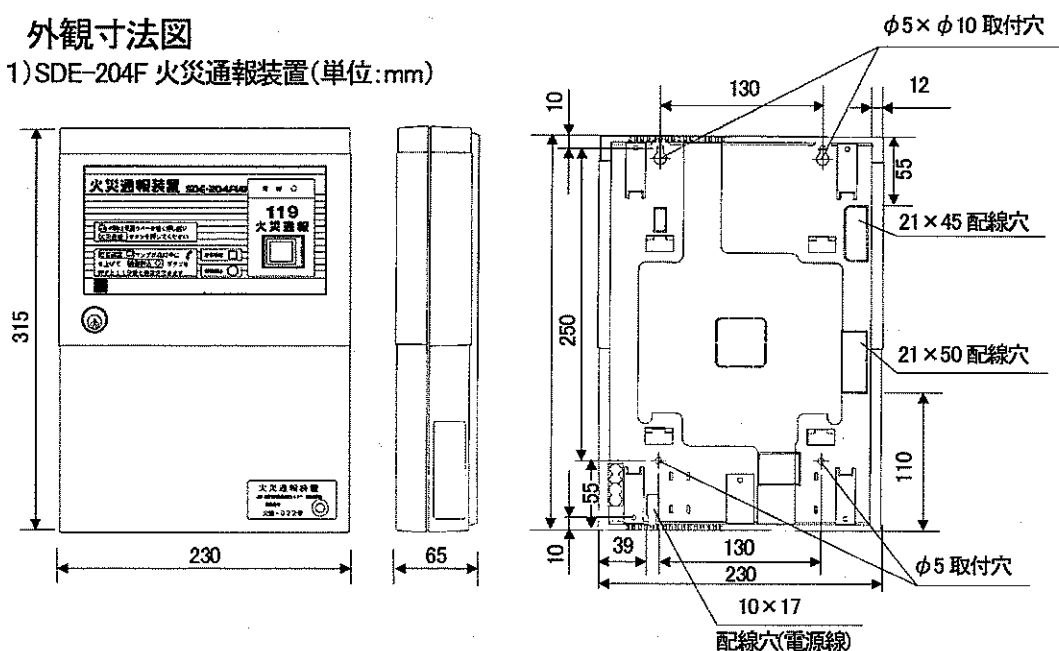
(注1) 音声ROMパックは火災通報装置毎に専用のものを使用して下さい。下表に製品毎に使用可能なROM/パックを示します。

番号	火災通報装置の品名	使用可能なROM/パックの品名
1	SDE-204F(2)火災通報装置	EPC-Ⅱ
2	SDE-204F(3)火災通報装置	EPC-Ⅲ
3	SDE-204F(4)火災通報装置	EPC-Ⅳ

※上記の組合せ以外では、ROM/パックを火災通報装置に取付けることが出来ません。

5-3 外観寸法図

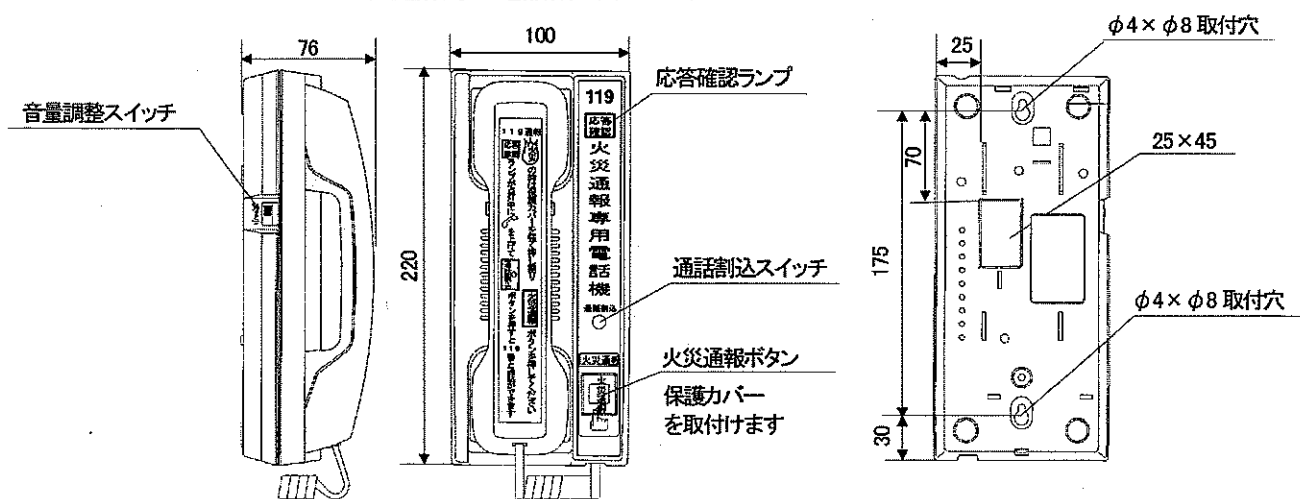
1) SDE-204F 火災通報装置(単位:mm)



重量 約 20kg 材質 難燃性ABS樹脂
色 ライトグレー(8.9Y 8/0.6)

カバーは正面向かって右開きに 90° 以上です。したがって設置に当たって右側に充分スペースをとってください。

2) RTC-203F 火災通報専用電話機(単位:mm)

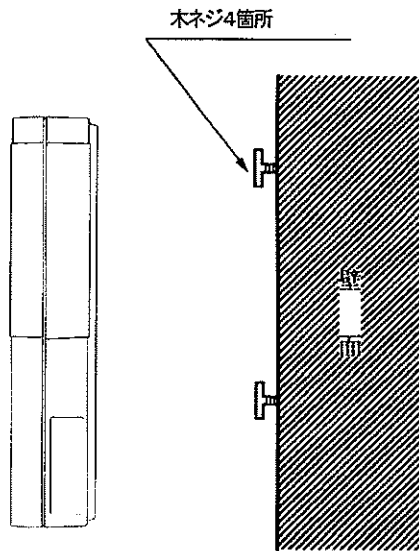


重量 約 0.6kg 材質 難燃性ABS樹脂
色 赤(4.5R 4.7/10.7)

⚠ 注意
火災通報装置および火災通報専用電話機は壁掛形となっていますので、取付に当たっては落下に注意してください。
けがの原因となります。

3) 本体の設置

(1) 本体は壁掛専用です。保守点検時のことを考慮に入れて本体の上端が床面より 150cm を越えないように設置してください。



(2) 壁がコンクリートのときは拡張形基礎ボルト4本を打ち込み固定してください。

(3) 壁が木製の場合で、本体の重量(約 20kg)を充分支えられる強度があれば木ネジにて固定します。ベニア等、強度が充分でない場合には補強工事を施してから固定してください。

4) 添付品

- (1) EPC-IVロムパック (別途) 1個
- (2) バッテリ (12V 0.8Ah 鉛蓄電池) 1個
- (3) 電源コード 1本
- (4) 鍵 (T-106) 2本
- (5) リチウム電池 (CR2032) 1個 (注1)
- (6) ミゼットヒューズ 0.5A 1本
- (7) ミゼットヒューズ 1.0A (タイムラグタイプ) 2本
- (8) モジュラーケーブル (6P 200mm) 1本
- (9) 露出タイプローゼット 1個
- (10) 取扱説明書 1部
- (11) 火災通報装置本体用保護カバー 2個
- (12) 火災通報専用電話機用保護カバー 2個
- (13) ダイオード 2本
- (14) 停電用電池交換注意ラベル 1枚
- (15) 故障時連絡先銘板 1枚

注1 装置内部のメイン基板上に実装してください。

(メイン基板上の右下にソケットがあります。5頁の⑥の位置にあります。)

5-4 端子台の接続

(1) LS1、LS2(通話路)

RTC-203F 火災通報専用電話機の L1、L2 端子に接続します。

(2) SP、GND(モニタスピーカ)

RTC-203F 火災通報専用電話機の SP、GND 端子に接続します。

(3) HOOK(電話機のフック)

RTC-203F 火災通報専用電話機の HOOK 端子に接続します。

(4) LED(応答用確認ランプ)

RTC-203F 火災通報専用電話機の LED 端子に接続します。

(5) F1+、F1-

RTC-203F 火災通報専用電話機の F+・F- に接続します。
また、火災通報ボタンとしても使えます。

(6) CLR(通話割込)

RTC-203F 火災通報専用電話機の CLR 端子に接続します。

(7) F2+、F2-

自火報または火災ボタンを接続します。(メーク接点のもの)

(8) BELL

火災報知ベル用の出力です。(メーク接点 GND 出力)

(9) LAMP

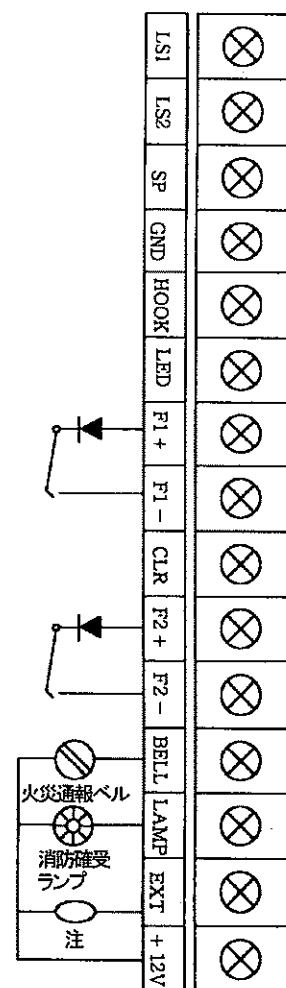
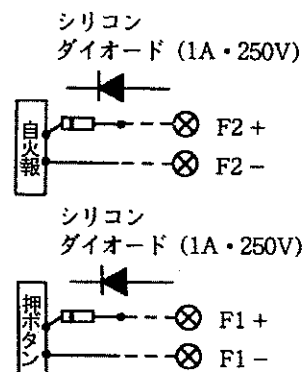
消防確受ランプ用の出力です。(メーク接点 GND 出力)

(10) EXT

ボタン線が短絡したときの出力です。(オープンコレクタ出力)

(11) +12V

外部電源用です。(DC12V)



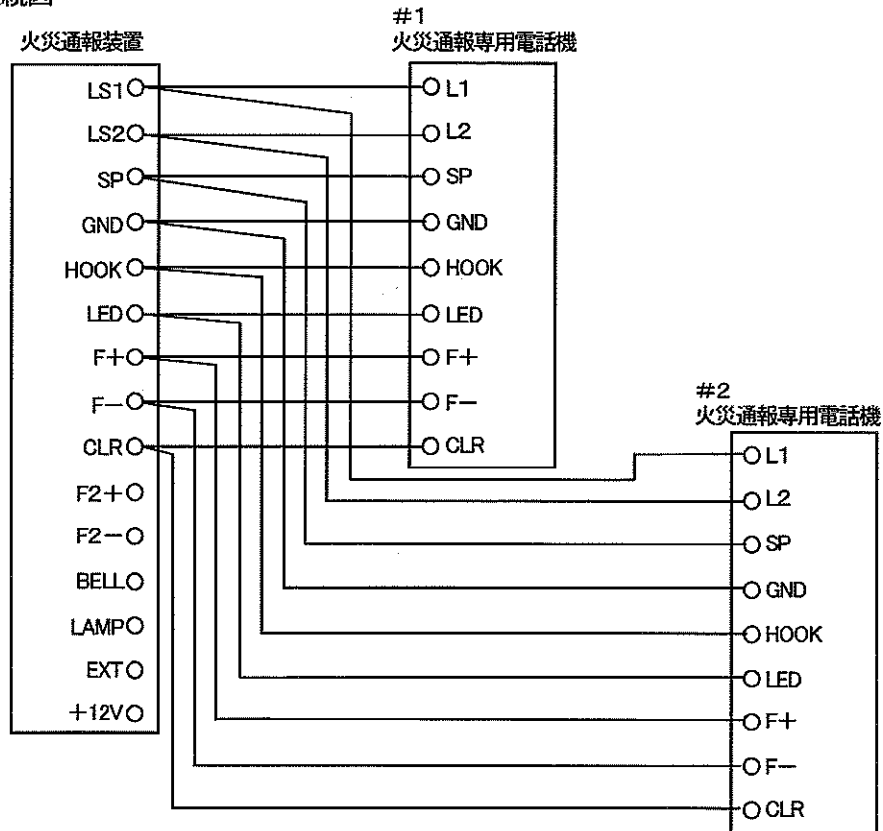
注 プザー等が接続できます。

6

接続方法

6-1 RTC-203F 火災通報専用電話機との接続

1)接続図



2)接続条件について

火災通報専用電話機は2台まで接続(並列)可能です。

以下の場合には下記の装置が必要です。

- ①火災通報専用電話機を3～5台まで接続するときは、RTC-204F 電話機増設装置が必要です。
- ②火災通報専用電話機を6～8台まで接続するときは、RTC-202F 電話機増設装置と PS-121 増設電源装置が必要です。
- ③火災通報専用電話機を9～16 台まで接続するときは、RTC-202F 電話機増設装置と PS-121 増設電源装置が各2台必要です。

本装置と火災通報専用電話機との配線総延長距離は下表の条件となります。

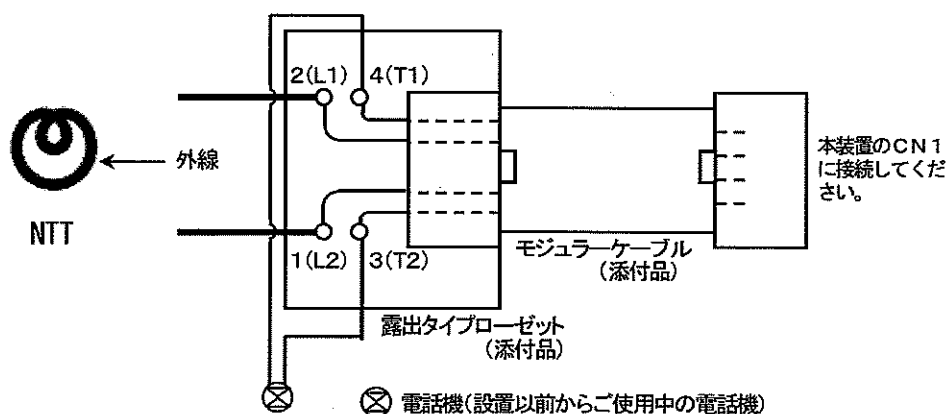
①電話機1台接続時(または、増設装置を使用して接続時の増設装置から各電話機までの距離)

線路径	総延長距離
φ 0.5mm	100m
φ 0.65mm	150m
φ 0.9mm	200m

②電話機2台接続時(並列接続時)

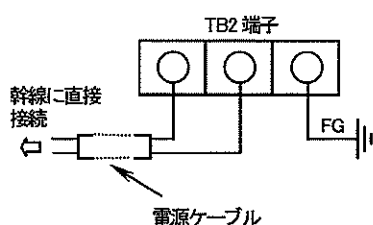
線路径	総延長距離
φ 0.5mm	80m
φ 0.65mm	100m
φ 0.9mm	150m

6-2 電話回線および電話機の接続



注 PBX・ボタン電話等に接続する場合は、極性がありますので注意してください。

6-3 電源の接続



△注意

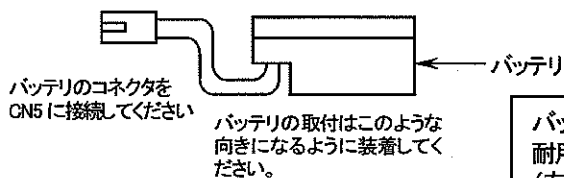
・本装置のAC電源および電池は、責任者以外ふれないでください。火災・感電・故障の原因となります。

・AC100Vは屋内幹線より直接配線してください。

・添付のACコードを使用する場合は、他の配線を分岐させないでください。接地用端子FGの対地アースは第3種とし、接地抵抗値は100Ω以下としてください。

単独アースで接地をお願いします。

6-4 バッテリーの接続



バッテリーの耐用年数は約3年です。耐用年数が切れたら交換してください。(有料)

6-5 リチウム電池

リチウム電池 (CR2032) は7年ごとに交換してください。(有料)

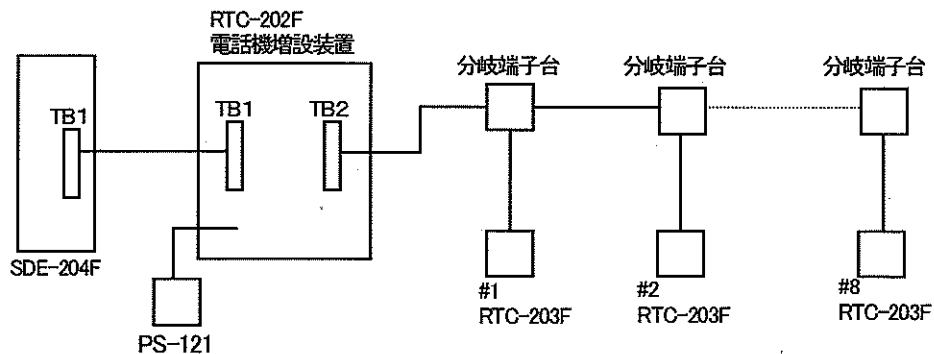
交換時はAC通電されている時に行ってください。電源を切って交換した時は、登録メモリが消えることがありますのでご注意ください。

6-6 RTC-202F 電話機増設装置 (オプション)

1) 概要

本装置は RTC-203F 火災通報専用電話機を増設する場合に使用し、必ず PS-121 電源装置が必要となります。
増設装置1台で RTC-203F 火災通報専用電話機を最大8台まで接続できます。

2) システム系統図



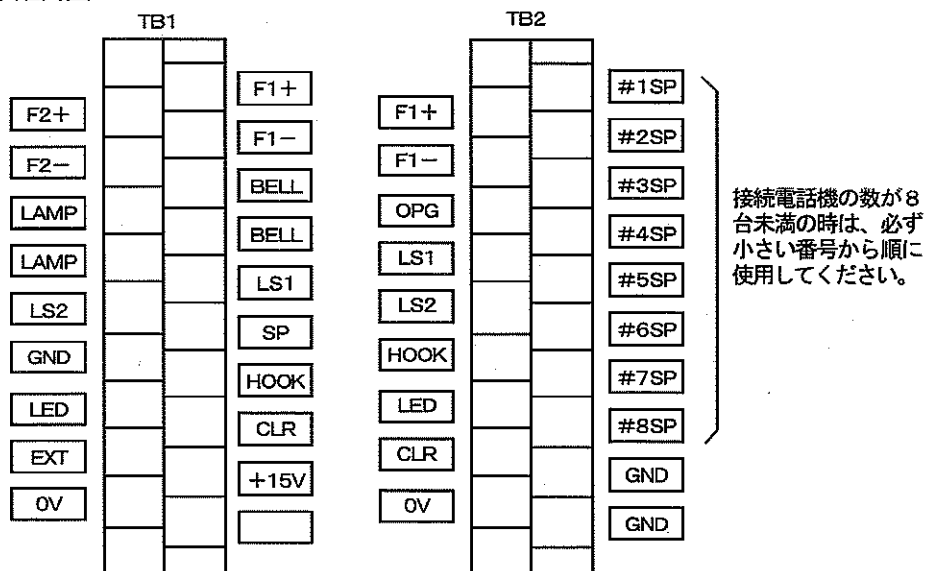
3) 仕様

入 力……………1チャンネル
出 力……………8チャンネル
スピーカ出力……………約 200mW
使用電源……………DC12V $\pm 5\%$
消費電流……………700mA (最大8台接続時)
外形寸法・重量……………155 (H) × 230 (W) × 65 (D) mm 約 1kg

4) 添付品

- (1) 1/2W 560 Ω 抵抗……………8本
- (2) 鍵 (T-106)……………2本
- (3) 取扱説明書……………1部

5) 端子配列図

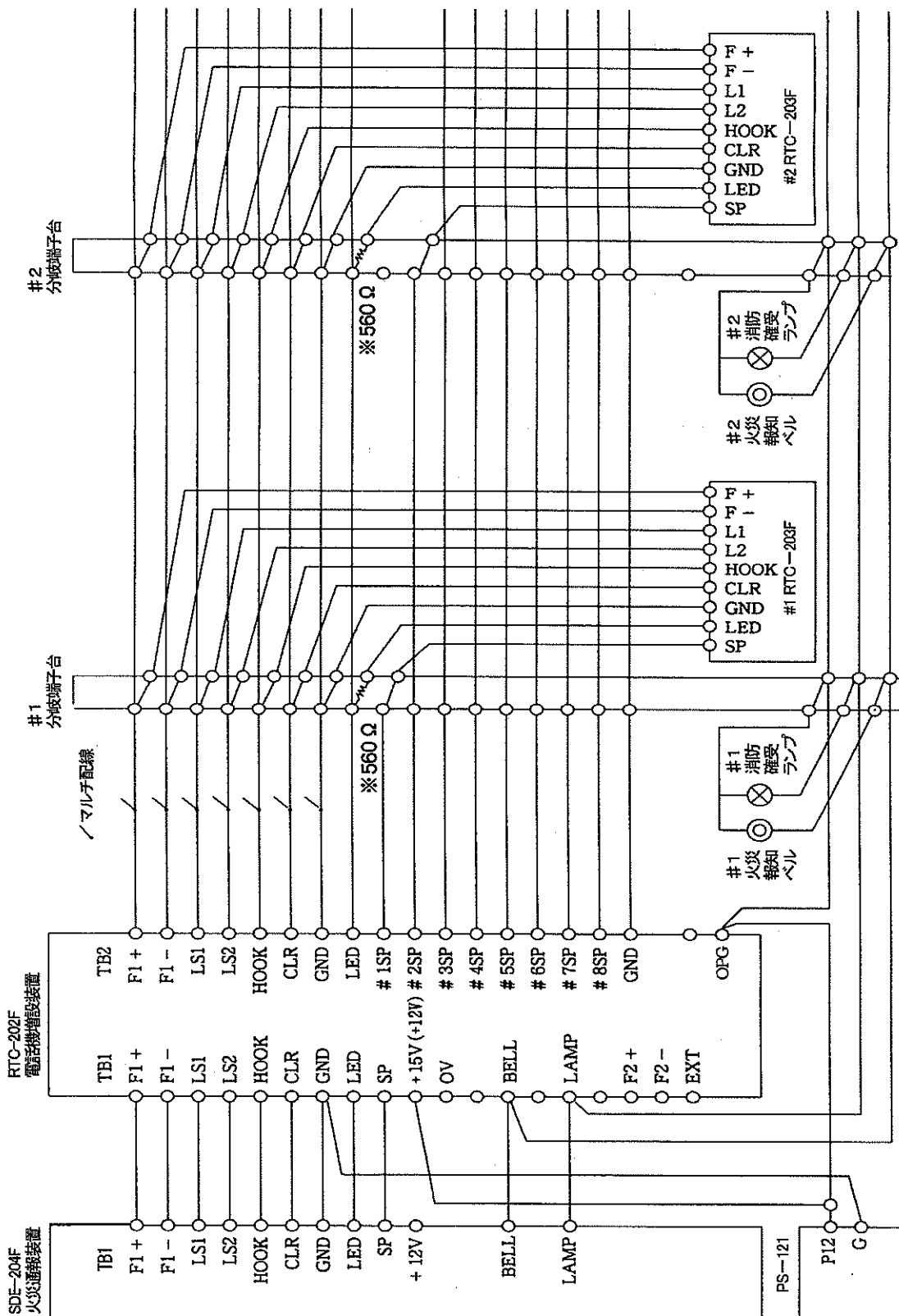


6) 工事要領

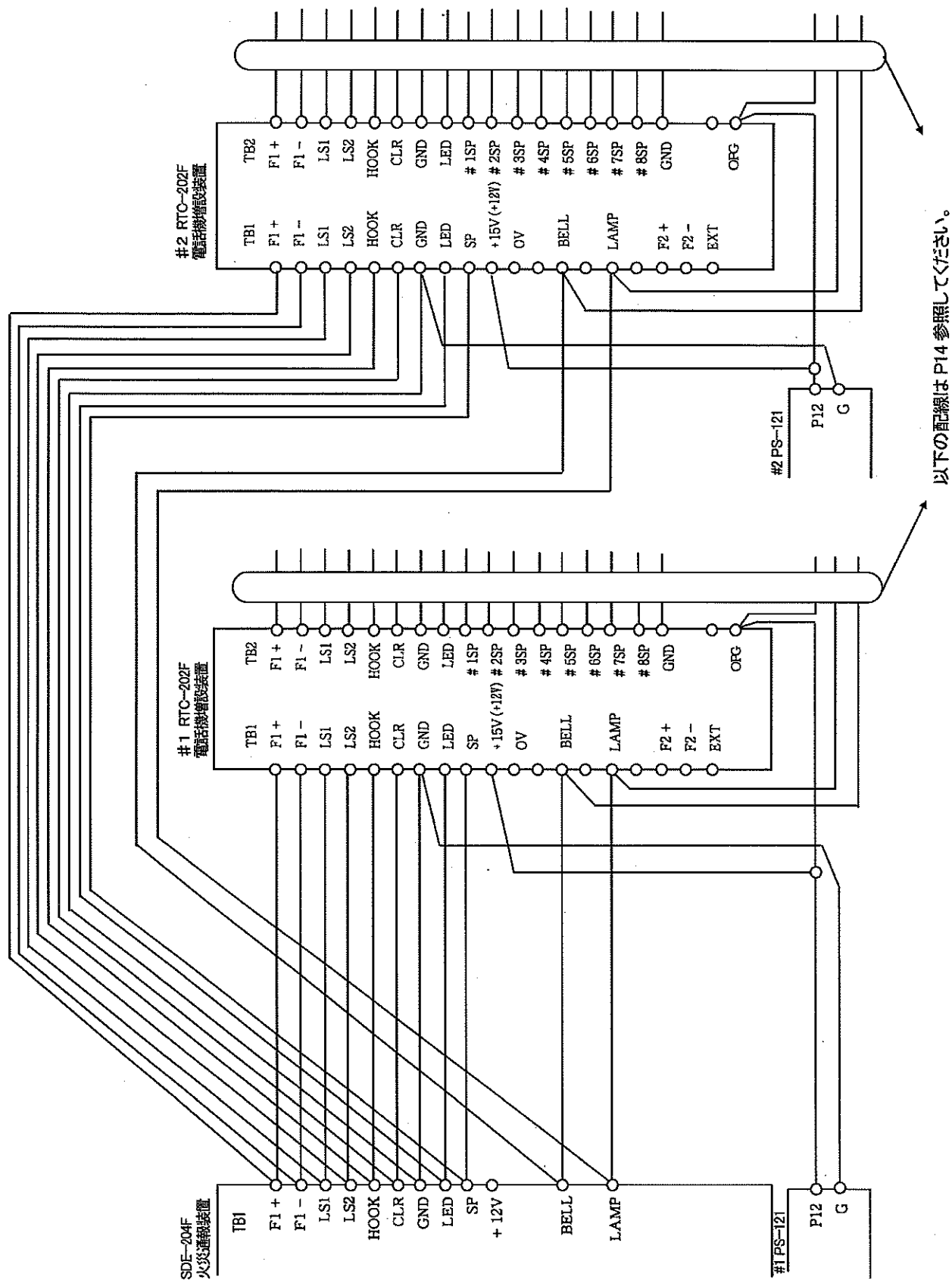
- (1) 本装置と RTC-202F 電話機増設装置、および RTC-203F 火災通報専用電話機の接続は、分岐端子台を介して 7) 配線図(P14)のように接続してください。
- (2) ランプ(LED)電流を制御するため、火災通報専用電話機1台につき必ず1個ずつ添付の抵抗(560 Ω)を接続してください。
- (3) ボリュームの調整
基板上のボリュームを右に廻すと電話機の音量が大きくなります。
◎VR1・……#1～#4の電話機の調整用
◎VR2・……#5～#8の電話機の調整用
- (4) 電話機設置の距離およびループ抵抗
電話機を増設する時は、本装置から最終電話機までの距離を最大 200m までとします。
その時のループ抵抗は、20 Ω 以下とします。
- (5) 配線に用いる電線は、次の通りとします。
 - (a) 屋内線は、心線径 0.5～0.9mmPVC 線または、これと同等以上の電線とします。
ただし、点検できない天井裏・床下等に配線する場合は、PVC 屋外線を使用してください。
 - (b) 屋外線は、心線径 0.5～0.9mm 網心入り PVC 線・PVC 屋外線または、これと同等以上の電線を使用してください。

7)配線図

イ)火災通報専用電話機を6～8台で使用の時



ロ) 火災通報専用電話機を9～16台で使用する時

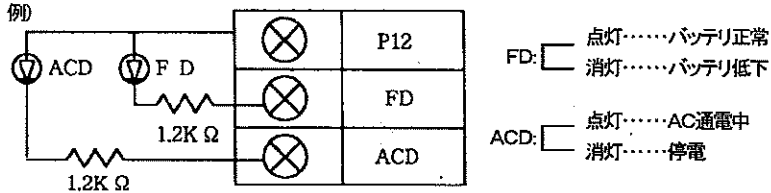


6-7 PS-121 増設電源装置 (オプション)

1) 機 能

- (1) 電源ランプ (緑) AC 通電時は点灯、停電時は点滅します。
- (2) 自己監視情報 本装置は自己監視情報として以下の出力信号を有しています。
 - a) ACD : 停電情報 (オープンコレクタ)
 - b) FD : バッテリ電圧低下情報および外部出力ヒューズ断情報 (オープンコレクタ) 上記端子に、ランプ等を接続する事により、上記情報の確認を行う事ができます。ただし、FD と ACD で使用する電流の合計は 100mA をこえないようにしてください。

(接続例)



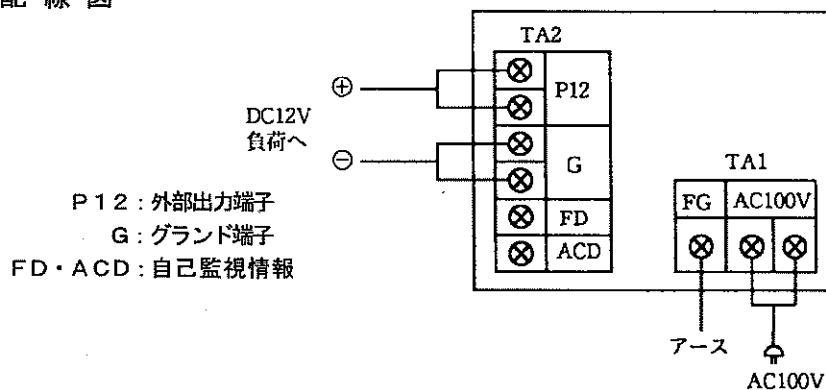
2) 仕 様

入力電源.....AC100V 50/60Hz
 外部供給電源.....DC12V±5% 900mA Max
 外形寸法・重量.....155(H)×230(W)×65(D)mm 約 1.3kg

3) 添 付 品

- (1) ヒューズ (2.0A, 250V (F1, F2) ミゼット型).....2本
- (2) ヒューズ (1.0A, 250V (F3) ミゼット型).....1本
- (3) バッテリ (10N1200SC-W (12V 1200mAh)).....1個
- (4) バッテリ押え板.....1枚
- (5) 押え板用ネジ.....2本
- (6) 扉開閉用鍵 (T-106).....2本
- (7) AC コード.....1本
- (8) 取扱説明書.....1部

4) 配 線 図

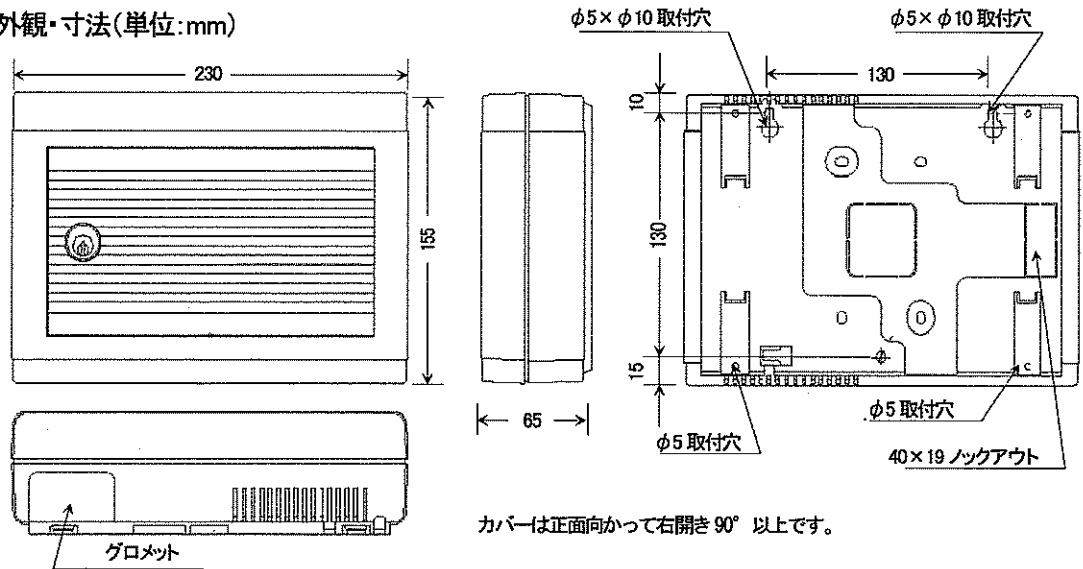


・AC100V は連続通電されている電源より供給してください。
 ・接地用端子 FG の対地アースは第3種とし接地抵抗値は 100Ω 以下としてください。単独アースで接地をお願いします。

5) 取付工事

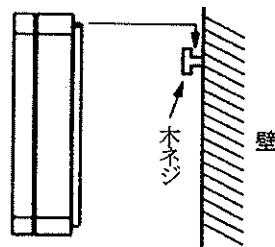
RTC-202F 電話機増設装置・PS-121 増設電源装置の取付方法は下記の通りです。
壁掛形となっていますので、設置にあたっては、次のような注意をしてください。

1. 外観・寸法(単位:mm)



2. 設置

- (1) 本体は、壁掛専用です。保守点検時のことを考慮に入れ本体の上端が、床面より 150cm を越えないように設置してください。



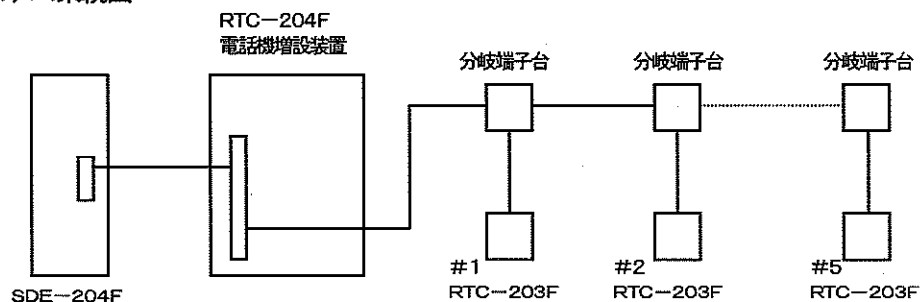
- (2) 壁がコンクリートの場合は、拡張形基礎ボルト4本を打ち込み固定します。
(3) 壁が木製の場合は、各々の重量を充分支えられる強度があれば、木ネジにて固定します。

6-8 RTC-204F 電話機増設装置 (オプション)

1) 概要

本装置は RTC-203F 火災通報専用電話機を増設する場合に使用します。
増設装置1台で RTC-203F 火災通報専用電話機を最大5台まで接続できます。

2) システム系統図



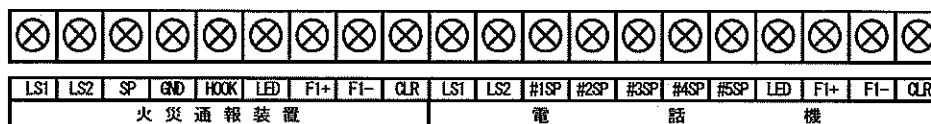
3)仕 様

入 力……………1チャンネル
 出 力……………5チャンネル
 スピーカ出力……………約 200mW
 使用電源……………AC100V ± 10%
 消費電流……………待機時7VA 動作時10VA(最大5台接続時)
 外形寸法・重量……………315(H)×230(W)×65(D)mm 約1.6kg

4)添 付 品

(1) 1/2W 560Ω抵抗……………5本
 (2) 鍵 (T-106) ……………2本
 (3) ミゼットヒューズ (1A) ……………2本
 (4) ACコード……………1本
 (5) バッテリ……………1個
 (6) 取扱説明書……………1部

5)端子配線図

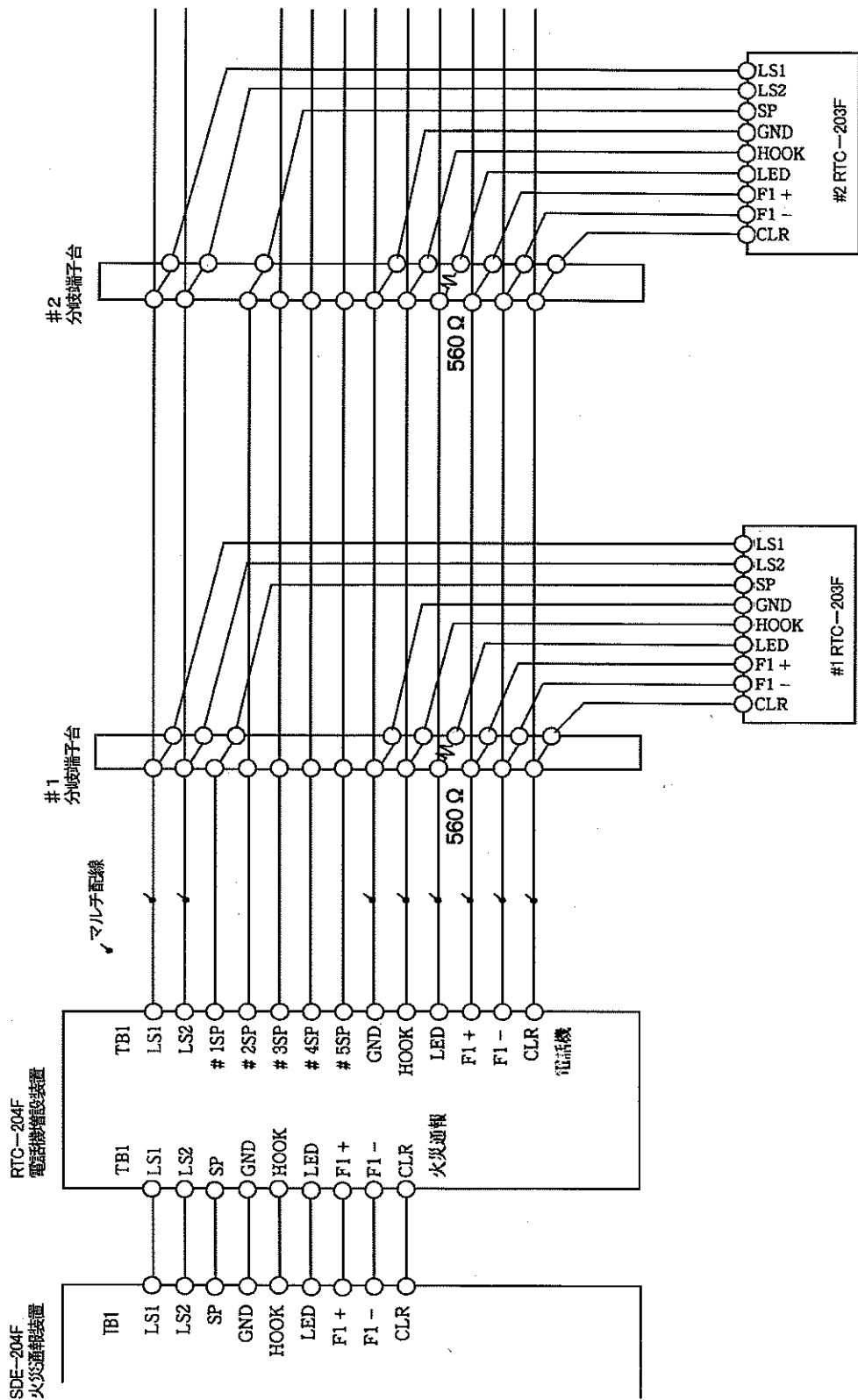


(実装はたて配列です。)

6)工事要領

- (1)本装置と RTC-204F 電話機増設装置および RTC-203F 火災通報専用電話機の接続は、分岐端子台を介して 7)配線図(P19)のように接続してください。
- (2)ランプ(LED)電流を制御するため、火災通報専用電話機1台につき必ず1個ずつ添付の抵抗(560Ω)を接続してください。
- (3)ボリュームの調整(**音量** ボリューム)
 基板上のボリュームを右に回すと電話機の音量が大きくなります。
 ◎ #1～#5全ての火災通報専用電話機の音量が調整されます。
- (4)電話機設置の距離およびループ抵抗
 電話機を増設する時は、本装置から最終電話機までの距離を最大 200m までとします。
 その時のループ抵抗は、20Ω 以下とします。
- (5)配線に用いる電線は、次の通りとします。
 - (a) 屋内線は、心線径 0.5～0.9mmPVC 線または、これと同等以上の電線とします。ただし点検できない天井裏・床下等に配線する場合は、PVC 屋外線を使用してください。
 - (b) 屋外線は、心線径 0.5～0.9mm 網心入り PVC 線・PVC 屋外線または、これと同等以上の電線を使用してください。

7)配線図



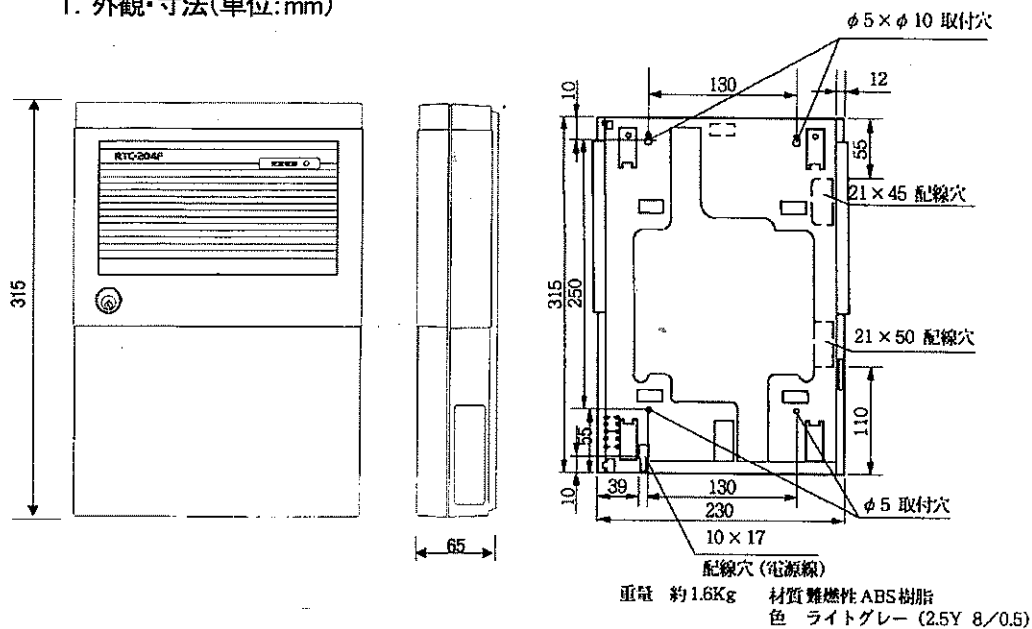
※必ず添付の 560Ω の抵抗を入れてください。

8) 取付工事

RTC-204F 電話機増設箱の取付方法は下記のとおりです。

壁掛形となっていますので、設置にあたっては、次のような注意をしてください。

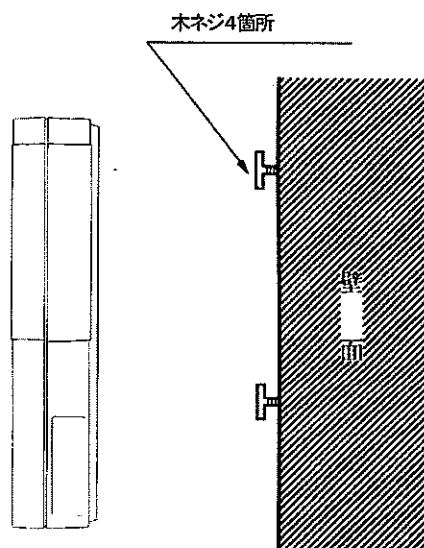
1. 外観・寸法(単位:mm)



カバーは正面に向かって右開きに 90° 以上です。したがって設置に当たって右側に充分スペースをとってください。

2. 設置

(1) 本体は、壁掛専用です。保守点検時のことを考慮に入れ本体の上端が、床面より 150cm を越えないように設置してください。



(2) 壁がコンクリートのときは拡張形基礎ボルト4本を打ち込み固定してください。

(3) 壁が木製の場合で、本体の重量(約 1.6kg)を充分支えられる強度があれば木ネジにて固定します。ベニア等、強度が充分でない場合には補強工事を施してから固定してください。



注意

壁掛形となっていますので、取付に当たっては落下に注意してください。けがの原因となります。

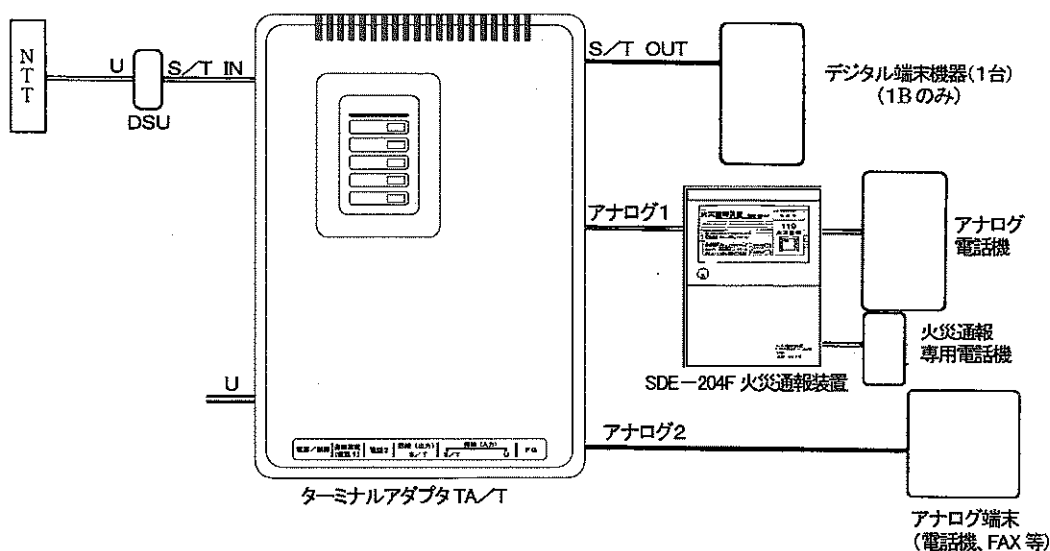
6-9 ターミナルアダプタ TA/T

この火災通報装置は、以下の方法にて、ISDN 回線への接続が可能です。

1. 火災通報装置を ISDN 回線に接続する場合は、必ず、下記のターミナルアダプタをご使用ください。

ターミナルアダプタ TA/T (サクサ(株)製)

2. 接続方法例



(注) ターミナルアダプタ TA/T 内蔵 DSU を使用する場合は、外付け DSU は不要です。
この場合は、電話回線を直接ターミナルアダプタ TA/T の「U」端子に接続してください。

3. 試験を行う際は、サクサ(株)製 iANTS-102 試験装置(安全センター認定:評 13-052 号)をご使用ください。

但し、iANTS-102 は生産終了しているため、新規購入はできません。

ご使用の場合は、メーカーお問合せ窓口または購入先にお問合せください。

4. 接続工事上の注意事項

- ・ターミナルアダプタ TA/T の前段(NTT 側)には、他のデジタル端末機器は接続しないでください。
- ・ターミナルアダプタ TA/T は、火災通報装置の優先発信機能を持っています。
火災通報装置が起動すると、他で使用している通信、通話が強制的に切断されますので、お客様に対しての周知をお願いします。

注) 詳細については、TA/T 添付の工事要領書を参考にしてください。

7 設定および登録

ご使用になる前に下記の登録が必要です。

内部のディップスイッチおよびテンキーによりそれぞれ設定登録してください。

7-1 ディップスイッチによる設定(テンキー基板に装着されているSW1による。)



1) 全/2(119番通報停止設定)

通報テスト時使用します。

「2」側にすると119番通報を行わず、一般通報のみを行います。

通報テスト後は必ず「全」側に戻してください。

2) TEST/—

通常は使用しません。

必ず「—」側にしてください。

7-2 ジャンパによる設定

1) 逆信時の電話機ベル鳴動ジャンパ(JP2、3)

逆信時に電話機のベル鳴動を設定します。

ON 側→火災通報専用電話機・電話機の両方が鳴ります。

OFF 側→火災通報専用電話機のみ鳴ります。

(2つのジャンパは必ず同一の設定とします)

(初期設定は ON 側です。)

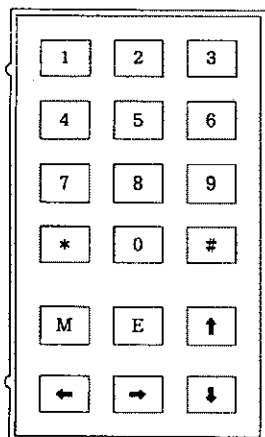
2) 火災通報専用電話機使用ジャンパ(JP5)

ON 側→火災通報専用電話機を使用しない場合(電話機使用の時)

OFF 側→火災通報専用電話機を使用する場合

(初期設定は ON 側です。)

7-3 テンキーによる登録と確認方法



M……登録/確認モードに使用

E……登録/確認モード終了に使用

#……セットに使用

*……確認に使用

テンキーおよびセグメント表示器により次の登録、および確認が行えます。

7-3-1 登録方法

- (1) **[M]** を押す。(登録/確認モード開始)
- (2) **[0][1][#]** ~ **[4][0][#]** のうち登録したいコードを押します。
- (3) 登録したい内容の数字を押します。(数字入力により登録モードとなります)
- (4) もう一度 **[#]** を押します。(登録終了により登録された内容は順次7セグメントLED
(以下LEDという)に表示されます)
- (5) (2)~(4)の繰返しにより次項目を選択します。
- (6) 登録作業を終了したい場合は **[E]** を押します。(登録モード終了)

〔登録内容一覧〕

項 番	登録項目	コード □□#	登録内容	初期値
1	一般通報先	01~16	通報先電話番号16ヶ所	—
2	一般通報先の シリーズコール	17	0: オールコール(すべての通報先 が応答するまで呼び出す) 1: 応答エンド(1ヶ所応答した所で 通報打ち切り)	0
3	一般通報時の 火災報知ベル・消防 確受ランプ出力	18	0: 一般通報時に火災報知ベルお よび消防確受ランプを出力しな い時 1: 一般通報時に火災報知ベルお よび消防確受ランプを出力する 時	1
4	メッセージの切替	19	0: 自火報入力による通報動作中に 押ボタンが押されたとき自火報 メッセージ1回送出後にメッセー ジ切替 1: 自火報入力による通報動作中に 押しボタンが押されたとき自火 報メッセージ途中でも切替	0
5	一般通報時の応答	20	0: 1メッセージを聞かないと応答と みなしません。 1: 1回目のメッセージの途中で ON HOOKしても応答とみなし ます。	1
6	音声検出用レベル	26	0: 音声検出の感度をよくするとき 1: 標準 2: 音声検出の感度をにぶらせる とき	1
7	メッセージ送出 開始時間	27	0: 5秒 1: 10秒	0
8	回線種別	31	1: DP1Opps 2: DP2Opps 3: PB	1
9	0発信の設定	33	0: 0発信なし 1: 0発信あり	0

項 番	登録項目	コード □□#	登録内容	初期値
10	F2ルートの設定	34	0:自火報 1:火災通報ボタン	0
11	一般通報メッセージ 送出時間	35	0:300秒 1:60秒	0
12	通話割り込み タイミングの設定	36	0:即時 1:1回目のメッセージ送出後に切り替え	0
13	不定メッセージ CH	37	0:F1→ACH 0:F2→BCH 1:F1、F2→A+BCH	0
14	一般通報時のモニタ	38	0:モニタなし 1:モニタあり	0
15	応答までの取り消し 機能	39	0:あり 1:なし	0
16	送信メッセージ「逆信 してください」の付加	40	0:あり 1:なし	0

〔登録設定例〕

- (1) 0 1 # 7 8 8 9 0 5 1 # 第1通報先(最大 16 桁)
~
- (16) 1 6 # 7 8 9 1 0 0 1 # 第 16 通報先(最大 16 桁)
- (17) 1 7 # 0 # オールコール(通報先すべてに通報)
- (18) 1 8 # 1 # 一般通報時の火災報知ベル・消防確認ランプ出力有
- (19) 1 9 # 0 # 自火報通報中押ボタンが押されても、自火報メッセージ1回送出後にメッセージを切替
- (20) 2 0 # 0 # 一般通報時の応答でメッセージを1回以上聞かないと応答とはみなさない。
- (21) 2 6 # 0 # 音声検出時の感度を良くする
- (22) 2 7 # 1 # メッセージ送出開始時間 10 秒にする
- (23) 3 1 # 1 # 本装置の回線種別 DP10PPS
- (24) 3 3 # 0 # 0発信なしの場合
- (25) 3 4 # 0 # F2 ルートが自火報の場合
- (26) 3 5 # 0 # 一般通報メッセージ長 300 秒
- (27) 3 6 # 0 # 通話割込は即時に行う
- (28) 3 7 # 0 # 不定メッセージはルート毎に送出される
- (29) 3 8 # 0 # 一般通報時のモニタ機能なし
- (30) 3 9 # 0 # 応答までの取消機能あり
- (31) 4 0 # 0 # 送信メッセージ「逆信してください」を送出する
- (32) E 終了

7-3-2 登録内容の確認方法

1) 7-3-1項で登録した内容の確認を行う場合は以下の操作を行います。

- (1) **M**を押します。(登録/確認モード開始)
- (2) **0 1 *** ~ **4 0 *** のうち確認したいコードを押します。
(*により確認モードとなります。なお、01~40は登録時のコードに対応します)
- (3) 登録されている内容を順次LEDに表示します。
- (4) (2)、(3)の繰り返しにより次項目を選択します。
- (5) 確認作業を終了したい場合は **E**を押します。(確認モード終了)

2) 1)項以外に下記内容の機能があります。

保守点検時等に利用してください。

操作方法は1)項と同様です。

項番	登録項目	コード □□ *	確認方法
1	火災通報ボタンメッセージモニタテスト	21	メッセージ内容を聴取
2	自火報メッセージモニタテスト	22	メッセージ内容を聴取
3	火災通報ボタンシミュレーション	23	LEDに通報先番号を順次確認後メッセージ内容を聴取
4	自火報シミュレーション	24	LEDに通報先番号を順次確認後メッセージ内容を聴取
5	バッテリー試験	25	正常:「ピンポーン」を聴取 異常:「ピッピッピ」を聴取

7-3-3 登録内容（一般通報先電話番号）の消去

- (1) **M**を押します。
- (2) **0 1 #** ~ **1 6 #** のうち、消去したいコードのテンキーを押します。(なお、01~16は登録時のコードに対応します。)
- (3) もう一度 **#**を押します。(消去完了)
- (4) 消去したいコードについて(2)~(3)を繰り返し行います。
- (5) 消去作業を終了したい場合は **E**を押します。

(消去例) **M 0 5 # #** で

(一般第5通報先の電話番号)の登録が消去されます。

7-4 通報メッセージの試験方法（聴取）

1) 火災通報ボタン用メッセージの聴取

- (1) **M** を押します。(登録／確認モード開始)
- (2) **2** **1** ***** を押します。
- (3) 「ピッピッピッ ピッピッピッ 火事です 火事です〇〇……〇〇逆信してください」
不定フレーズ A
- (4) **E** を押します。(登録／確認モード終了)

2) 自火報用メッセージの聴取

- (1) **M** を押します。(登録／確認モード開始)
- (2) **2** **2** ***** を押します。
- (3) 「ピンポ〜ン ピンポ〜ン 自動火災報知設備が作動しました〇〇……〇〇逆信してください。」
不定フレーズ B
- (4) **E** を押します。(登録／確認モード終了)

注) 7-3-1項で登録番号 11 (F2 ルートの設定) が[火災通報ボタン]のときは固定フレーズ (ピンポ〜ン……) のみが 1) と同じ内容になります。

7-5 通報動作の試験方法

1) 火災通報ボタンの動作試験(回線をつかむことはありません)

- (1) **M** を押します。(登録／確認モード開始)
- (2) **2** **3** ***** を押します。
- (3) **1** **1** **9** を表示と共に(イチ イチ キュウ)の音声と通報「ピッピッピッ……してください」を送出。一般通報先の登録がされている場合は、各通報先について **X** **X** …… **X** **X** (一般通報先ダイヤル) を LED 表示し、音声を送出します。
- (4) **E** を押します。(登録／確認モード終了)

2) 自火報の動作試験(回線をつかむことはありません)

- (1) **M** を押します。(登録／確認モード開始)
- (2) **2** **4** ***** を押します。
- (3) **1** **1** **9** を表示と共に(イチ イチ キュウ)の音声と通報「ピンポ〜ン……してください」を送出。 **X** **X** …… **X** **X** (一般通報先ダイヤル) を LED 表示し、音声を送出します。
- (4) **E** を押します。(登録／確認モード終了)

注) 7-3-1項で登録項番 11 (F2 ルートの設定) が[火災通報ボタン]のときは固定フレーズ (ピンポ〜ン……) のみが 1) と同じ内容になります。

7-6 バッテリーの試験方法

- (1) **M** を押します。(登録／確認モード開始)
- (2) **2** **5** ***** を押します。
- (3) ①/バッテリー正常時……………ピンポ〜ン音送出
②/バッテリー異常時……………ピッピッピッ音送出
- (4) **E** を押します。(確認モード終了)

8-1 通報の優先順位機能

自火報(F2)より火災通報ボタン(F1)が優先となります。

1) 火災通報ボタンの通報動作中に自火報入力があっても無視されます。

2) 自火報の通報動作中に火災通報ボタン入力を検知した場合は、次のメッセージからまたは即時に(設定による)通報メッセージを火災通報ボタン用メッセージに切り換えます。

8-2 強制切断機能

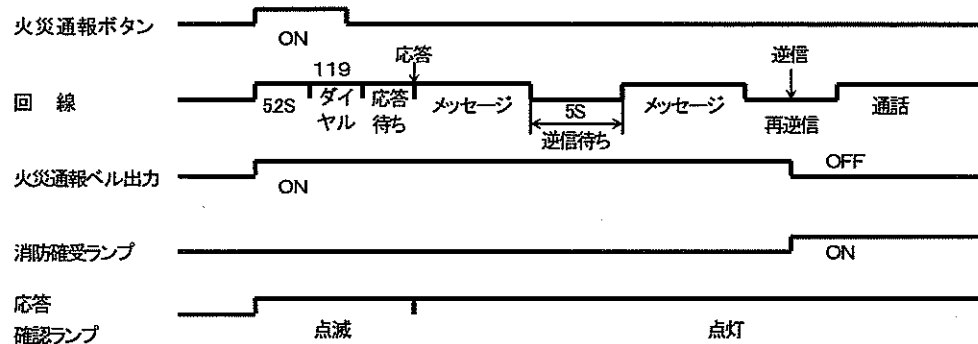
電話機が使用中に火災通報ボタンや自火報の動作があった場合は、通話を強制切断し通報動作に入ります。また着信中も同様に強制切断します。

8-3 火災通報ボタン、自火報の短絡検出機能

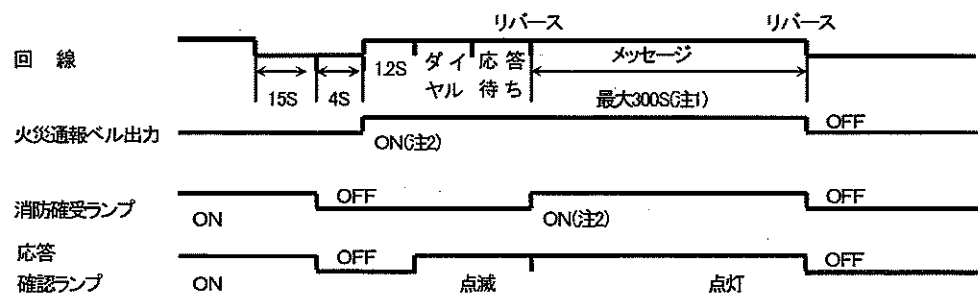
火災通報ボタン(F1)または自火報(F2)の配線が障害で短絡した場合、EXT 端子に出力(0.5 秒間隔で断続出力)することができます。電子ブザーなどを取付けますと事故の事前チェックが可能です。

8-4 消防確受ランプ・火災報知ベル出力の動作

1) 消防署(119)通報の場合



2) 一般通報(1~16 件)の場合



注1) 工注により、60 秒とすることができます。

注2) 工注により、火災報知ベル・消防確受ランプ出力なしにすることができます。

8-5 音声ロムパック

専用の録音機を用いて通報時に送出されるメッセージを録音します。
2種類(Aチャンネル、Bチャンネル)の通報メッセージが録音できます。

送出メッセージ

1) 火災通報ボタンによる通報動作時

「ピッピッピッ ピッピッピッ 火事です 火事です【Aチャンネルのメッセージ】逆信してください」

2) 自火報による通報動作時

「ピンポ〜ン ピンポ〜ン 自動火災報知設備が作動しました【Bチャンネルのメッセージ】逆信してください」

録音時間は各チャンネルごとに8秒間です。

※登録により、AチャンネルとBチャンネルのメッセージを連続して送出することもできます。

8-6 動作と表示

1. バッテリ試験(7-6/バッテリー試験方法参照)

正常な場合: 「ピンポ〜ン」の音が聞こえます。

異常な場合: 「ピッピッピッ」の音が聞こえます。

2. 火災通報ボタン

火災の時は保護カバーを強く押し割り、火災通報ボタンを押してください。

3. 応答確認ランプ

119番および一般通報の呼出中は点滅します。119番および一般通報先応答後は点灯します。(P27参照)

4. 通話割込ボタン

ボタンを押すと、通話取り消しと通話割り込みができます。

(1) 通報を取り消すときは、119番が応答するまでに通話割込ボタンを押します。
(受話器はかけたままで押します。)ただし、登録により取り消せない場合があります。

(2) 119番と通話するときは、119番が応答後に火災通報専用電話機か、または接続されている電話機の受話器をあげ通話割込ボタンを押します。

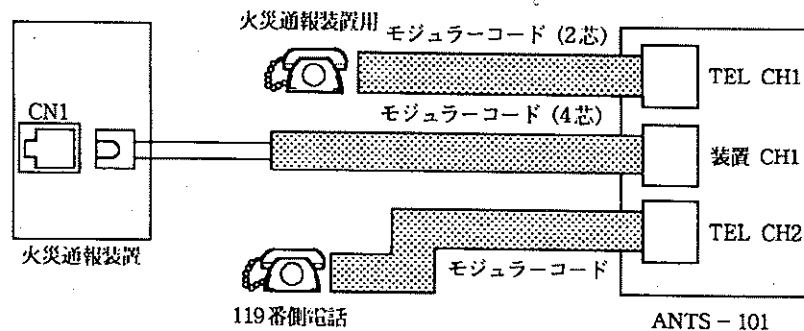
8-7 動作試験

ANTS-101 簡易交換機を使用して動作試験を行う時は下記の要領にて行ってください。

(119 番へは通報しません。)

この試験を行う時は、電話機が使われていないことを確認してから行ってください。

一連の試験が終わった後は、電話機が使用できることを確認してください。



接 続 図

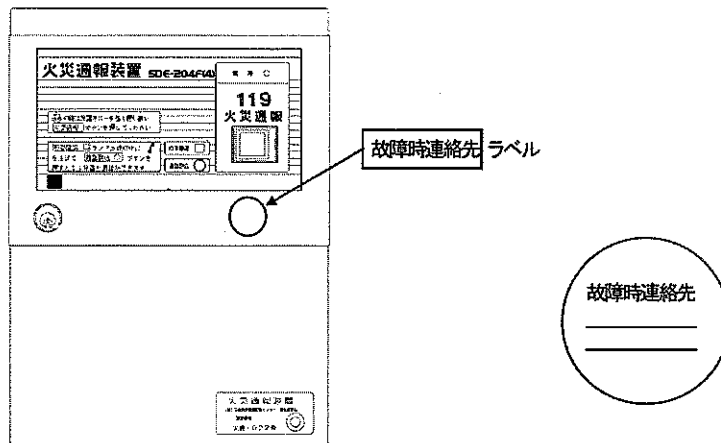
- (1) 上図の方法で接続します。
- (2) 火災通報装置と 119 番側電話機の間で、通報試験を行うことができます。
- (3) ダイヤル番号は **ダイヤル表示用 LCD** に表示されます。
- (4) 送出メッセージや通話内容は **内蔵スピーカ** よりモニタされます。
- (5) **逆信** スイッチを押すことにより、119 番側から呼返し信号を送出することができます。
- (6) **話中** スイッチを押すことにより、119 番を話中状態にすることができます。
- (7) 本装置は 119 番以外の一般通報を行うこともできます。

9-1 添付ラベルの貼付

本装置に添付のラベルは、適切な運用を図るために必ず貼り付けてください。

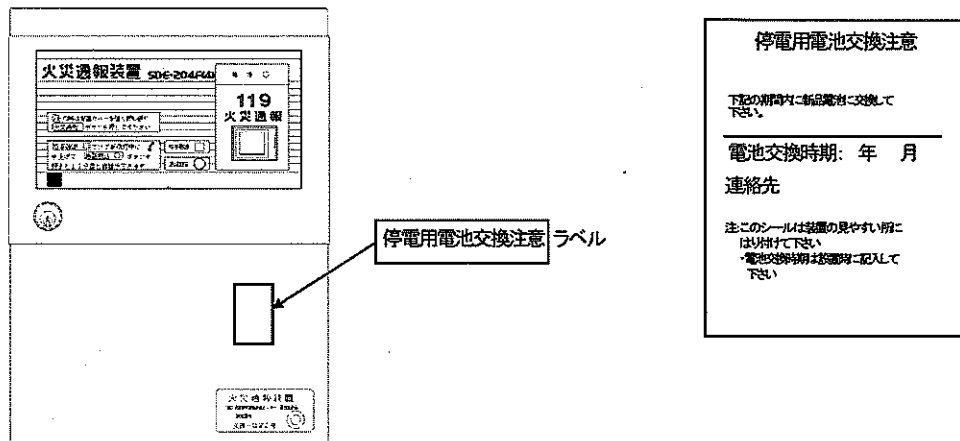
1) 故障時連絡先 ラベル

必要事項(連絡先・電話番号)を記入し、下記の位置に貼り付けてください。



2) 停電用電池交換注意 ラベル

必要事項(電池交換時期・連絡先)を記入し、下記の位置に貼り付けてください。



※電池交換時期が過ぎますと、万一の停電発生時に装置が正常に動作しないことがあります。

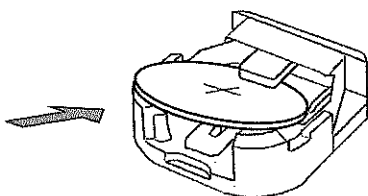
尚、記入内容についてはお客様を担当する保守業者とご相談ください。

9-2 バッテリーの耐用年数

バッテリーの耐用年数は約3年となっております。
耐用年数が切れたら交換してください。(有料)

9-3 リチウム電池の装着について

添付品のリチウム電池を電池ホルダに装着してください。



リチウム電池(メモリバックアップ用)の耐用年数は通常使用時で約7年となっております。

耐用年数が切れたら交換してください。(有料)

リチウム電池の交換はAC電源通電中に行ってください。

電源を切って交換した時は、登録メモリが消えることがありますのでご注意ください。

9-4 外部供給電源

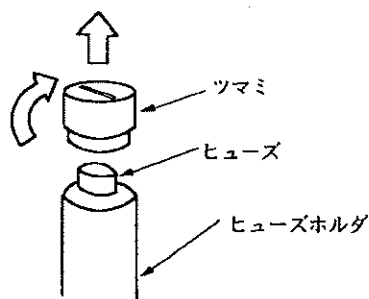
DC12V 300mAを越えるときは、PS-121 増設電源装置が必要です。

9-5 ヒューズの交換について

ヒューズは出荷時に装着されております。(P5 [内部の名称] 参照)

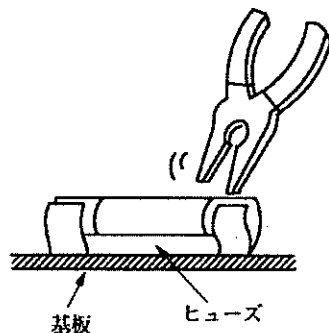
なんらかの原因によりヒューズが破損した場合は添付品と交換してください。

1) AC電源用ヒューズ[F1/F2:1A(タイムラグタイプ)]



ツマミを矢印方向に廻し外します。
中のヒューズを交換します。

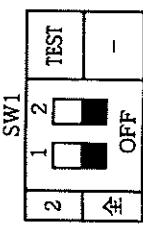
2) 外部供給電源用ヒューズ[F3:0.5A]

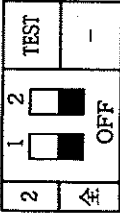


はめ込み方式で固定されていますので
ペンチ等で交換します。

9-6 アクリルカバーの交換について

通報等で火災通報ボタンのアクリルカバーを割ったあとは、添付品と交換してください。

症 状	原 因	処 置
電 源 電源が入らない。	■ TB2 端子 AC100-FG 接続ミス ■ 1 次側に AC100V が流れていない。 ■ ヒューズが切れている。	● 接続を確認してください。 ● TB2 端子 AC100V をテスターで確認してください。 ● F1・F2 をそれぞれ確認してください。(本体の電源ランプ確認)
火災通報装置本体の火災通報ボタンを押しても 119 番通報ができない。	■ 回線種別の設定がまちがっている。 ■ 電話回線の接続がまちがっている。 (ピンク回線、ISDN 回線は、接続できない。) ■ 電話回線が、他の装置の後ろに本体が接続されている。 (0088 等のアダプタがついている) ■ 本体が登録モードになっている。 ■ ディップスイッチ (SW1) がテスト側に設定されていないか。	● 電話回線のダイヤル方式を確認し、正しい設定にしてください。 ダイヤル式 (DP10・DP20) プッシュボタン式 (PB) 「確認方法」 火災通報装置本体または火災通報専用電話機の火災通報ボタンを押した時、119 番をダイヤルする音が聞こえ、その後呼出トーンがでます。 ● 添付ローゼットの L1・L2 に N T T からの電話回線が接続されているか確認してください。 「確認方法」 ローゼットの L3・L4 に接続されている線は、L1・L2 にテスターであたり DC48V あるかを確認する。 (テスト用送受話器にてトーンが出ているか確認) ● 電話回線の接続を、まず初めに本体 (L1・L2) 他の装置を (L3・L4) 側につけ替えてください。 ● テンキーの E を押し登録モードを解除してください。 「確認方法」 登録確認用 LED に「」が表示されている場合登録状態。 ● ディップスイッチ (SW1) の 1 を (全側) ディップスイッチ (SW1) の 2 を (一側) 

	症 状	原 因	処 置
1 1 9 番 通 報	火災通報専用電話機の火災通報ボタンを押しても119番通報ができない。	■ 本体と火災通報専用電話機間の配線がまちがっている。 ■ 専用電話機内のコネクタがはずれている。 ■ 他に押しボタンがついており、押し切りになっている。 ■ ディップスイッチ (SW1) がテスト側に設定されている。	● 正確に接続してください。 「確認方法」 火災通報専用電話機のF・F-をテスターであたる。DC13.8V あれば、ボタンが押されていない状態。0V なら押された状態または、接続ミス。 ● コネクタをきっちりとはめてください。 ● 全ての押しボタンを確認し引き上げてください。 ● ディップスイッチ (SW1) の1を (全側) ディップスイッチ (SW1) の2を (一側) 
逆 信	消防から逆信を送っているが火災通報専用電話機から呼出し音が鳴らない。(送受話器をあげると、通話ができる。)	■ 火災通報専用電話機のフックがあがっている。 ■ 主装置の後ろに本体が接続されている。(FAXと同じ回線は、逆信時FAXが着信してしまつたため使用できない。) ■ 消防から逆信に対して電話機が鳴動する。 ■ 逆信待ちの5秒間に電話局交換機からの逆信信号が届いていない。	● フックを確実にかけてください。 「確認方法」 本体の HOOK と GND の端子をテスターであたり DC13.8V あるか。 (0V ならフックがあがっている。) ● 主装置の前に本体を接続してください。 ● ジャンパピン JP2、JP3 がON になっている。 ● 消防指令台の逆信操作を速やかに且つ3秒以上の長押しで行っていただけるよう、消防局に依頼してください。
設 定	テンキーから設定ができない。 登録したデータが消える。	■ 本体とキーボードのコネクタがはずれている。 ■ リチウム電池がない。電池がきれている。	● 確実にに入れてください。 ● リチウム電池を交換してください。(DR2032)
応 答 確 認	火災通報ボタンを押しても、応答確認ランプがつかない。	■ 本体と火災通報専用電話機の配線がまちがっている。 ■ 火災通報専用電話機から本体まで距離がかなりある。(200m 以上、20Ω 以下) ■ 560Ω の抵抗がついていない。 ■ 火災通報専用電話機3台以上の場合、増設電源装置がついていない。(電源容量不足)	● 正確に接続してください。 ● 距離を短くしてください。 増設装置を火災通報専用電話機の近くにもって行ってください。 ● 抵抗をつけてください。 ● 増設電源装置をつけてください。

【保守サービスのご案内】

●本システムには、保証書がついております。

保証書は、本取扱説明書についておりますので「販売店、お買い上げ年月、製造番号」など必要事項の記入をお確かめになり、保証書に記載されている保証内容をよくお読みのうえ、大切に保管ください。

●保証期間は、お買い上げ日から1年間です。

※保証期間中でも有料になることがあります。保証書をよくお読みください。

※本システムの不具合により生じた損害の補償について当社では、一切の責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

●故障またはお問い合わせについて

故障修理の場合は、サクサテクニカルサービス（株）（0238-24-5325）にてお受けいたします。

機器のお問い合わせについては、お客様相談室（0570-003933）へお問い合わせください。

●保証期間中の修理について

正常な使用状態で発生した故障につきましては、保証書の記載内容に基づき無料で修理致します。修理時に保証書をご提示ください。

●保証期間経過後の修理について

修理によって本システムの性能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理致します。ただし、補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後5年です。

- ・ お預かり修理：技術費用＋部品代をいただきます。

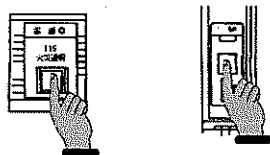
（故障内容によっては高額になる場合もありますのでご了承下さい。）

この頁は切り取り、壁などに貼ってご利用ください

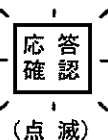
火災発生時の動作手順

I. 火災通報専用電話機を接続した場合

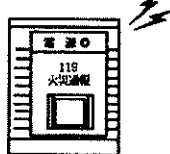
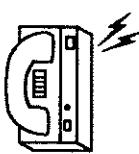
1. 火災通報ボタンを強く押します。



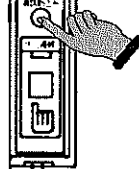
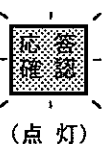
火災通報装置の前面パネルにある火災通報ボタン、火災通報専用電話機の火災通報ボタンのどれを押しても作動します。



火災通報ボタンが押され火災通報装置が起動すると「**応答確認**」ランプが点滅します。

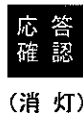
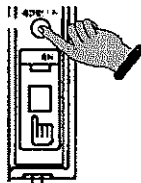
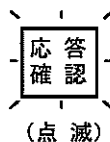


2. 「**応答確認**」ランプが点灯している時は、119 番にメッセージを送出しております。
119 番へ通報されるものと同じ内容のメッセージが、火災通報装置および火災通報専用電話機のスピーカから流れます。



火災通報専用電話機の手受器を外し、「通話割込」ボタンを押すと 119 番と直接通話ができます。(火災の規模、負傷者の有無)

3. 火災通報専用電話機のベルが連続して鳴り出したら、受話器を上げることにより、119 番と直接通話ができます。
4. 誤って火災通報ボタンを押してしまった場合に、通報をキャンセルしたい時は、「通話割込」ボタンを押してください。



「**応答確認**」ランプが点滅している時に「通話割込」ボタンを押すと、通報をストップさせ応答確認ランプが消えて全ての動作が終了します。ただし、設定により 119 の取消しができない場合があります。

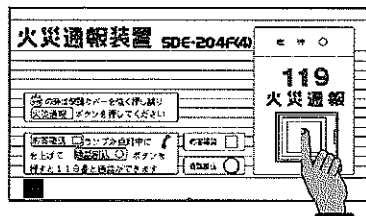
注) 通報動作中は、本体に接続された電話機はご使用になれません。

この頁は切り取り、壁などに貼ってご利用ください

火災発生時の動作手順

Ⅱ. 火災通報専用電話機未接続の場合

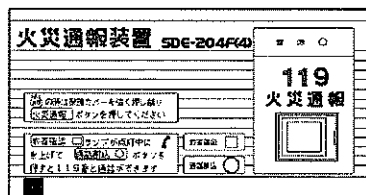
1. 火災通報ボタンを強く押します。



火災通報装置の前面パネルにある火災通報ボタンを押してください。

応答確認 

火災通報ボタンが押され火災通報装置が起動すると **応答確認** ランプが点滅します。

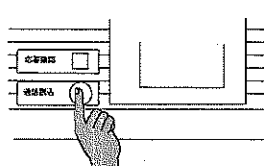


2. **応答確認** ランプが点灯している時は、119 番にメッセージを送出しております。

119 番へ通報されるものと同じ内容のメッセージが、火災通報装置のスピーカから流れます。

応答確認 

(点灯)



電話機の受話器を外し、「通話割込」ボタンを押すと 119 番と直接通話ができます。

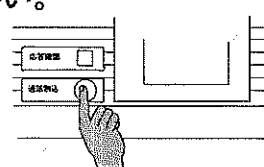
(火災の規模、負傷者の有無)

3. 電話機のベルが連続して鳴りだしたら、受話器を上げることにより、119 番と直接通話ができます。

4. 誤って火災通報ボタンを押してしまった場合に、通報を取消したい時は、「通話割込」ボタンを押してください。

応答確認 

(点滅)



応答確認 ランプが点滅している時に「通話割込」ボタンを押すと、通報をストップさせ応答確認ランプが消えて全ての動作が終了します。ただし、設定により 119 の取消しができない場合があります。

注) 通報動作中は、電話機はご使用になれません。

保証書

技術基準適合認定品

形 名 SDE-204F 火災通報装置一式

★ お 客 様	ご住所	〒□□□ □□□□ TEL		
	お名前	ふりがな 様		
保証期間	本体	1年	★お買い上げ年月 □□ 年 □□ 月 □□ 日	
★販売店	住所氏名	TEL		

★製造番号

★お買い上げ年月・販売店名・お客様名・製造番号などに記入もれがありますと無効となりますので、必ずご確認ください。

本書は再発行しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

本書は、本書記載内容で無料修理させていただくことをお約束するものです。

- お客様の取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書による正常なご使用状態で、保証期間中に故障した場合には、お買い上げの販売店に修理をご依頼のうえ、本書をご提示ください。下記、3. に該当する場合を除き無料修理いたします。
- 保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買上の販売店にご相談ください。
なお、本書に記入してあるお買い上げ販売店修理をご依頼になれない場合は、お近くの弊社営業窓口、お客様相談室にお問い合わせください。
- 次のような場合には保証期間中でも有料修理になります。(修理料金と合わせて消費税を申し受けます。)
 - ①ご使用上の誤りや改造または不当な修理による故障および損傷。
 - ②お買い上げ後の落下、および運送上の故障および損傷。
 - ③火災、塩害、ガス害、地震、風水害、落雷、およびその他天災地変による故障および損傷。
 - ④本書の提示がない場合
 - ⑤本書にお客様名、お買い上げ年月、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書きかえられた場合。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。

This warranty is valid only in Japan.

修理実地日	修理内容	担当者

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。

したがってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合はお買い上げ販売店またはお近くの弊社営業窓口、お客様相談室にお問い合わせください。

お問い合わせ・障害受付窓口 お客様相談室

0570-003933

お問い合わせ窓口のご案内

このたびは、当社の商品をお求めいただき、誠にありがとうございます。

商品についてのお問い合わせ、ご相談、アフターサービス（修理）などにつきましては、お求めになりました販売店または下記の当社窓口にご相談ください。

サクサ株式会社

本社 〒108-8050 東京都港区白金 1-17-3 NBF プラチナタワー

ホームページアドレス : <http://www.saxa.co.jp/>

■ 営業窓口

ソリューション営業本部

第一営業部	〒108-8050	東京都港区白金 1-17-3 NBF プラチナタワー	TEL (03) 5791-5526
中部支社	〒460-0008	名古屋市中区栄 1-3-3 朝日会館 AMNNAT ビル 14F	TEL (052) 220-3930
関西支社	〒530-0027	大阪府北区堂山町 3-3 日本生命梅田ビル 3F	TEL (06) 6367-0393
九州支社	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前 1-15-20 NOF 博多駅前ビル 5F	TEL (092) 473-1511
東北支社	〒983-0852	仙台市宮城野区榴岡 4-2-8 テルウェル仙台ビル 2F	TEL (022) 297-5835
静岡営業所	〒420-0858	静岡県静岡市葵区伝馬町 24-2 穴吹第 17 静岡ビル 8F	TEL (054) 653-7711
金沢営業所	〒921-0031	石川県金沢市広岡 2-13-23 AGS ビル 4F	TEL (076) 255-0393
高松営業所	〒760-0071	香川県高松市藤塚町 1-10-30 アバンシア高松ビル 9F	TEL (087) 861-7450
広島営業所	〒730-0015	広島市中区橋本町 10-6 広島 NS ビル 7F	TEL (082) 511-7555
札幌営業所	〒060-0001	札幌市中央区北一条西 7-3 おおわだビル 1F	TEL (011) 281-1035

■ お問い合わせ・障害受付窓口

商品に関するお問い合わせや障害時の受付は下記の窓口にお問い合わせください。

お客様相談室

TEL 0570-003933

※上記の住所・電話番号などは都合により、変更になる場合がございます。その際は、ご容赦ください。

※「お問い合わせ窓口のご案内」は、修理・サービスの時に必要になりますので大切に保管してください。



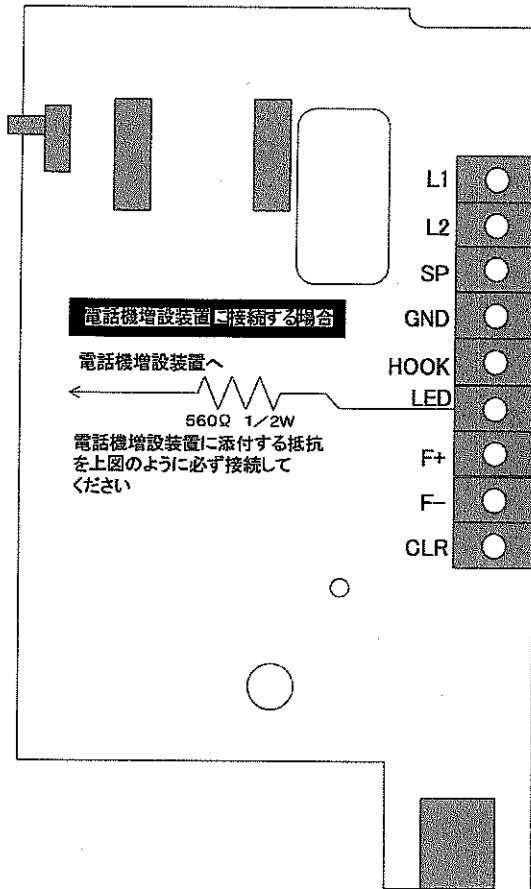
この記載内容は平成23年1月現在のものです。
本取扱説明書は再生紙を使用しております。

991NT | 111-1 | Z

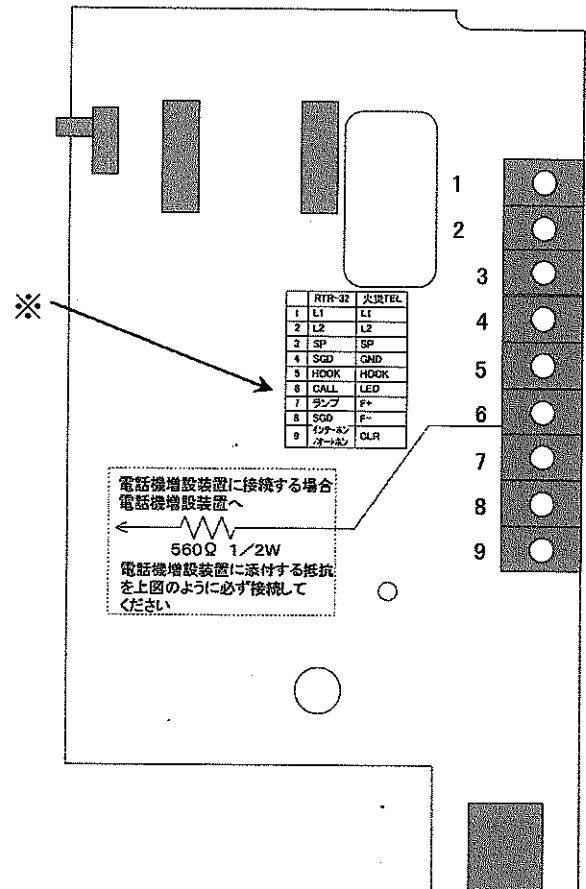
4531066000

火災通報専用電話機 接続端子について

- 接続端子の表示は、製造時期により「端子名称」で明記するもの、「端子番号」で明記するものがあります。



端子名称 表示



端子番号 表示

- ※ 端子番号表記の電話機では、プリント基板上に端子番号と名称の対照表を表示しています。

	火災TEL
1	L1
2	L2
3	SP
4	GND
5	HOOK
6	LED
7	F+
8	F-
9	CLR